

アイデア募集の結果について

現庁舎の跡地活用についてのアイデアを募集したところ、94件の応募があった。

1. 募集期間等

募集期間：平成21年7月22日（水）～8月28日（金）

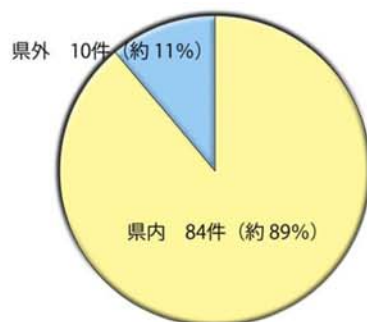
募集項目：①跡地活用に求めるもの（あるべき姿などの基本理念）

②具体的な跡地の活用策

2. 応募状況

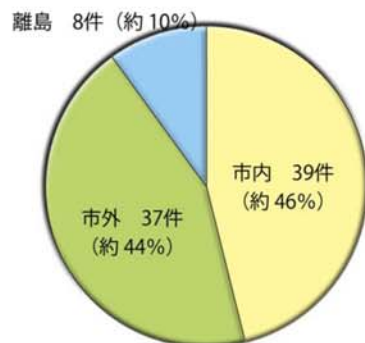
■応募件数（県内外）

	件数	構成比
県内	84件	約 89%
県外	10件	約 11%
不明		
計	94件	



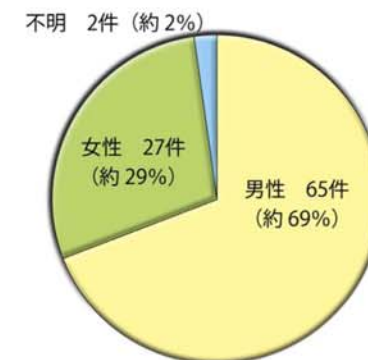
■応募件数（県内の内訳）

	件数	構成比
長崎市内	39件	約 46%
市外	37件	約 44%
離島	8件	約 10%
計	84件	



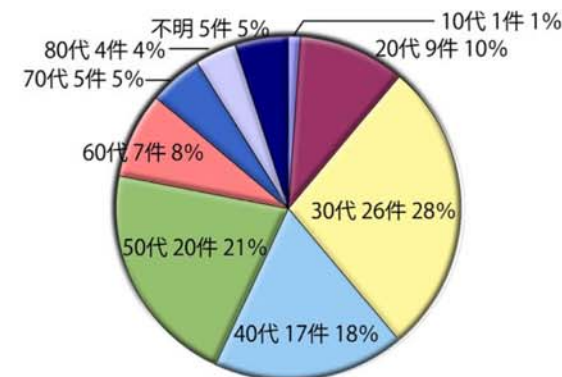
■応募件数（性別）

	件数	構成比
男性	65件	約 69%
女性	27件	約 29%
不明	2件	約 2%
計	94件	



■応募者の年齢構成

	件数	構成比
10代	1件	約 1%
20代	9件	約 10%
30代	26件	約 28%
40代	17件	約 18%
50代	20件	約 21%
60代	7件	約 8%
70代	5件	約 5%
80代	4件	約 4%
不明	5件	約 5%
計	94件	



- 37 県営駐車場 29 低額の駐車場
- 50 地下駐車場 90 駐車場
- 58 駐車場
県警を含め、全て駐車場
- 33 公営駐車場
道路を整備 県庁で行き止まりになっている状態を解消
会議室を整備 公的機関を含め利用しやすい会議室
- 60 駐車場
駐車場不足をカバーして経済発展の促進
県警本部跡地は**宿泊施設**
- 38 複合施設
伝統工芸館、国際文化会館
ホール、コンベンションホール
ホテル等、劇場、病院
- 26 中心商店街と大波止・駅地域などの人の流れを創出すし、賑わいのあるまちづくり
・市庁舎の移転、防災センター
・観光センター、バスセンター
・大型駐車場とくunch広場
・公営カジノ等娯楽施設
- 62 複合施設
低層の身体障害者と介護者の集会センター
観光情報センター、防災センター
- 02 ①県民・市民が気軽に立ち寄ることができる場所
②中心市街地活性化の核となる場所
③出島や長崎を眺望できる場所
出島に類似した扇型の建造物を整備し公益性の高い企業を誘致～複合施設
- 59 「ながさき道の駅」
観光客、県民・市民の憩いや情報集積場所
- 67 売却
安価で売却することを前提として、研究施設、観光・物産情報発信施設など県の基盤となる法人、団体による活用
- 88 公益法人センター
科学・防災総合会議所
- 23 新幹線と在来線の駅
バスターミナル、ショッピング
宿泊施設、アミューズメント施設を複合する
- 05 県警本部庁舎を建設
県警本部庁舎跡地を公共防災広場として活用
- 32 売却
公共施設は満足している
商業施設は交通混雑を惹起
新庁舎建設費用～不要資産売却
民間企業に売却

都市機能

- 16 観光による街の活性化～複合施設
地下駐車場、観光総合案内所、
大型イベント会場
外観を歴史的建造物のデザインとし、
歴史街道を再現するフロアを設け、**展望レストラン**・**展望タワー**
- 24 観光総合情報センター
- 45 郷土芸能やまつりの資料館
- 49 観光施設
観光客や県民が集まる施設、
大型駐車場、**長崎奉行所西役所の復元**、
おくunchなどの出し物が見られる施設
- 64 人が集まる都市施設
歴史タワー
歴史・観光・教育の場となる施設
- 89 史跡復元及び駐車場
- 17 歴史博物館西役所分館
出島を一望できる**展望スペース**
子供老人複合施設
ミニバスを活用して周辺施設
・地域との回遊性を高める
- 54 長崎振興局を移転
道州制後は**世界遺産館**
- 14 観光案内施設
市町の長崎事務所
公園
民間への払い下げ・リース
- 12 時代背景を勘案して複合施設
観光施設、災害時支援施設
立体駐車場
屋上に市民憩いの広場
外観を周囲の景観に配慮
- 69 出島周辺整備のための代替地
出島周辺を海や水路に戻す
- 61 病院、学校などの公共施設を整備
商業施設にする場合は**ホテル等**
- 86 図書館、青少年センター
奉行所様式、市内在り望める**展望施設**
- 87 図書館
周辺には避難場所を兼ねた**緑地公園**
- 03 出島と一体として整備
歴史の再現～**長崎奉行所西役所を復元**
資料館
現庁舎地下には出島や浜の町への**観光バス駐車場**を整備
県警跡地は日生ビルを含め再開発
地下駐車場やグランドホテル跡地などとの連絡通路を整備
再開発ビルはコールセンターなど企業誘致や市役所通りの
再開発種地として使用
- 80 建物を美術館や博物館といった**文化施設**
- 30 オフィスビル
- 92 インキュベーション施設
県警本部跡地を人材育成施設
- 34 市役所の立替用地
- 19 現庁舎解体後地元商店街の街並み
改善や再開発などの**仮店舗スペース**
再開発後は種地として活用
- 71 売却
観光や宿泊施設に活用できる企業に売却
- 55 売却
県庁舎立替財源

観光

- 35 物産・特産品センター
観光の拠点施設
- 06 歴史文化的活用
江戸時代の家並みを再現した「長崎江戸村」
石垣などの遺構を保存
長崎奉行所西役所を復元
郷土資料館として整備
「国際観光案内所」の機能を持たせる
県警本部跡地は高層立体**駐車場**として整備
- 36 歴史公園
ミニ明治村、ミニ映画村の長崎県版
長崎奉行所西役所を復元、**コンベンション施設**、**コンサート場**、**公園**、**展望台**、**伝統芸能資料館**
- 72 遺構を保存し、その活用と県民のシンボリックな役割を付与する
教会堂を復元、**憩いの広場**、**観光交流施設**を整備
- 76 **長崎奉行所西役所を復元**
- 07 **長崎奉行所西役所を復元**
- 53 歴史文化施設
映像や遊具で体感しながら学べる施設
- 66 歴史資料館
- 77 史跡復元
出島と一体的な整備
- 11 出島と一体の施設として整備

歴史

- 46 文化施設
遺構等有る場合は文化施設
無い場合は**道路**、**緑地帯**
- 08 市役所立替の仮移転場所
市役所移転完了後に市民の**憩いの広場**を整備
「出島から海、さらには海外が見える丘」
地下駐車場を整備
- 82 市役所が望ましが、長崎市がそれを希望しないのであれば**緑地公園**
- 70 公園、科学館、
高齢者の人材活用施設、
文化施設
- 91 木と水のマイナスイオンが沢山降り注ぐ
県民の憩いの場
東京都庭園美術館を理想とする空間
- 78 植栽により自然に戻す～**公園**
若しくは「知の拠点」として
サテライトキャンパス、**研究施設**
- 84 **県民交流センター**
歴史文化常設展示や
サテライトキャンパス

- 09 駐車場と展望台付きのタワー
- 10 観光イベントに利用できる広場
おくunch、物産展などに利用できる場所
- 13 観光行事に利用できる**展望台付き屋内イベント広場**
- 39 **テーマパーク**
「コン☆パクト ながさき」
庁舎を観光や長崎ブランドの**情報発信拠点施設**
- 57 **歴史資産を復元し体験型観光施設**、
奉行所遊園地
- 27 **展望施設**、**展望レストラン**、**駐車場**、
ショッピングモール
長崎奉行所西役所を復元した複合施設
- 51 **公園**、**駐車場**、**タワー**、**レスト施設**
歴史を感じる公園
遺構の展示
出島、周辺地域と一体との融合
- 48 **長崎奉行所西役所の復元**
と**歴史資料館**
出島と一体的に整備
- 56 **長崎奉行所西役所を復元**
「出島と一体的に整備」
教会復元、**石垣復元整備**
展望所、**観光物産館**、**駐車場**
埋蔵文化財展示施設
- 68 **歴史公園及び観光客用駐車場**
出島と一体的な整備
- 85 物語性を基調に
- 75 歴史を踏まえた活用

- 42 出島と一体となった**歴史博物館**
ランドマークに
平和聖堂、**県警本部跡地を歴史**
研究センターとして整備

- 21 外国人居留施設やキリシタンの
コレジオなどを整備して**体験型**
の教育施設を整備
美しい**公園広場**を含めて整備
- 25 立体駐車スペース、道の駅、
くunch広場、物産館
わざわざ立ち寄りたくなる
場所
- 22 **県民局**（最上階を**360度のパノラマ**に）
県民や旅行者等が利用できる施設
離島の人たちとの交流
県民の憩いの場所であり長崎県の
情報発信地
- 43 特定のものに特化した全国的に
有名になる施設～全国から人が
集まる施設
公園、**物産館**、
シブヤ大学のような施設
- 73 **史跡博物館**
県・市民、観光客のため“水”をモチーフとする**公園**、
低廉な**駐車場**
- 18 **歴史公園**（南側に植林し出島との風景のつながりを）
県庁の建物を活用した**歴史公園**
- 15 **展望レストラン**や**イベントホール**
- 20 県民が自由に集い、憩える施設
観光客にも満足できる空間
コンサート、イベント、会議場などの
多目的ホール、周辺に**観光案内所**
- 40 **公園**
遊具等は設置しない
一部を**石畳**とし、**くunch**で使用
中心商店街と大波止の間の人の
流れ
- 04 建物を新設するのではなく**多機能広場**に
イベント会場や県主催の行事開催場所
国内外の交歓交流施設
安心・安全～大交番
各市町の木や花を植栽し、県民の広場に

交流

- 74 **公園**
憩いの空間としての公園～
市街地であることを忘れさせて
くれる都心の無の空間
- 52 **長崎平和の森公園**
箱物は建設しない
欧州文化都市にあるような
憩いの森
- 93 **県民交流センター**
- 94 **交流センター**
- 83 **県民交流センター**
- 81 **公園**
跡地周辺の歴史を説明
- 44 木々に囲まれた**公園**
イベントスペース
- 41 **公園**
日本に誇れる公園を

応募アイデアの分類

■歴史に重点をおいたアイデア

史跡復元（西役所、石垣、教会）	15件
歴史博物館・資料館（埋蔵文化財展示施設、郷土資料館）	10件
歴史・史跡公園（歴史公園、史跡公園、奉行所遊園地）	6件
歴史研究センター	1件
計	32件

■観光に重点をおいたアイデア

展望施設（展望所、展望タワー、展望レストラン）	14件
観光施設（体験型施設、テーマパーク、公営カジノ等娯楽施設）	10件
付帯駐車場（観光バス駐車場、高層立体駐車場、地下駐車場）	10件
総合案内所（観光総合情報センター、国際観光案内所）	7件
くんち広場・イベント広場	7件
物産館	4件
伝統工芸館・資料館（まつり資料館、伝統芸能資料館）	3件
宿泊施設（ホテル等）	3件
世界遺産館	1件
計	59件

■交流に重点をおいたアイデア

公園・多機能広場（緑地、イベント会場、屋上憩いの広場、平和の森公園）	26件
交流センター（県民交流センター、青少年センター、身障者・介護者の集会センター）	12件
多目的ホール等（劇場、コンベンションホール、国際会議場）	7件
計	45件

■都市機能に重点をおいたアイデア

駐車場（地下駐車場、公営駐車場、低額の駐車場）	12件
教育・研究施設（サテライトキャンパス、科学館、インキュベーション施設）	7件
文化施設（美術館、博物館、図書館、公文書館）	6件
行政施設（市役所、県警本部、長崎振興局、市町の長崎事務所）	6件
防災センター（防災広場、災害支援施設、科学・防災総合会議所）	5件
公益法人センター・高齢者人材活用施設	3件
駅・バスセンター（新幹線と在来線の駅）	2件
道の駅	2件
商業施設（ショッピングモール、アミューズメント施設）	2件
病院	2件
道路（出島方向のT字路の解消）	2件
高齢者・身障者集合住宅	1件
オフィスビル	1件
計	51件

■その他

売却等（売却、リース）	6件
代替地・種地（市役所仮庁舎代替地、商店街仮店舗スペース、出島整備代替地、再開発種地）	5件
計	11件

合 計 198件

アイデア募集結果（提案内容）

区分番号	居住地域	年齢	性別	頁
01	長崎市	50代	男性	100
02	長崎市	40代	男性	100
03	長崎市	不明	男性	100
04	長崎市	50代	男性	101
05	兵庫県	70代	男性	101
06	諫早市	60代	男性	101
07	長崎市	50代	男性	101
08	長崎市	50代	男性	101
09	五島市	30代	女性	102
10	五島市	50代	女性	102
11	埼玉県	40代	男性	102
12	南島原市	30代	男性	102
13	五島市	50代	男性	102
14	南島原市	30代	男性	103
15	東京都	40代	女性	103
16	長崎市	50代	男性	103
17	長崎市	40代	女性	104
18	福岡県	不明	男性	104
19	東京都	50代	男性	104
20	長崎市	50代	男性	105
21	大村市	70代	女性	105
22	兵庫県	70代	男性	105
23	諫早市	40代	男性	105
24	新上五島町	60代	男性	105
25	長崎市	20代	女性	106
26	長崎市	40代	女性	106
27	長与町	30代	男性	107
28	長与町	30代	女性	107
29	西海市	50代	男性	107
30	長崎市	30代	女性	107
31	西海市	50代	男性	108
32	西海市	30代	男性	108
33	雲仙市	30代	女性	108
34	長崎市	50代	男性	108
35	新上五島町	30代	男性	109
36	長崎市	40代	男性	109
37	西海市	30代	男性	109
38	長崎市	50代	男性	109
39	福岡県	30代	男性	110
40	長崎市	30代	男性	110
41	佐世保市	30代	男性	111
42	長崎市	80代	男性	111
43	大村市	30代	男性	112
44	長崎市	50代	男性	113
45	長与町	30代	女性	113
46	雲仙市	20代	男性	113
47	長崎市	40代	女性	113
48	長崎市	40代	男性	113
49	長崎市	30代	女性	114
50	諫早市	30代	女性	114

区分番号	居住地域	年齢	性別	頁
51	長崎市	50代	男性	114
52	長崎市	50代	男性	114
53	佐世保市	20代	女性	115
54	松浦市	40代	男性	115
55	佐世保市	30代	女性	115
56	長崎市	不明	女性	115
57	長崎市	30代	女性	115
58	五島市	50代	男性	116
59	長崎市	40代	男性	116
60	長崎市	80代	男性	116
61	諫早市	60代	男性	116
62	長崎市	40代	女性	117
63	壱岐市	70代	男性	117
64	長崎市	70代	不明	117
65	佐世保市	20代	女性	118
66	佐世保市	30代	女性	118
67	南島原市	30代	男性	118
68	南島原市	30代	男性	118
69	大村市	30代	男性	118
70	佐世保市	30代	女性	118
71	南島原市	40代	男性	119
72	五島市	30代	男性	119
73	長崎市	60代	男性	119
74	長崎市	40代	女性	119
75	東京都	20代	男性	120
76	大村市	不明	男性	120
77	長崎市	50代	男性	120
78	佐世保市	40代	女性	120
79	長崎市	40代	男性	120
80	諫早市	20代	男性	120
81	長崎市	60代	男性	121
82	長崎市	60代	男性	121
83	島原市	10代	女性	121
84	福岡県	20代	男性	121
85	島原市	80代	男性	122
86	長崎市	80代	男性	122
87	長崎市	50代	男性	122
88	長崎市	60代	男性	123
89	諫早市	50代	男性	123
90	雲仙市	30代	男性	124
91	長崎市	30代	女性	124
92	福岡県	不明	男性	124
93	西海市	20代	女性	125
94	佐世保市	20代	男性	126
その他(#1)	長崎市	20代		126

#1：「その他」は、アイデア募集期間後に寄せられたものであるため件数等には反映していません。

01■ 50代 男性（長崎市）

跡地活用について

県の中心地長崎市の中心場所として、広く県民の声を反映させ、次世代に役に立つ基本的考え方。

又、活用策として、県民のいこいの広場、県内市町の名産、産直品を紹介した、県民センターの新設、等実現して欲しい。

02■ 40代 男性（長崎市）

「県庁跡地活用について」

1) 跡地のあるべき姿などの基本理念

- ① 県民・市民が気軽に立ち寄ることが出来る場所とする。
- ② 中心市街地活性化の核となる場所とする。
- ③ 出島商館跡や長崎港の眺望を楽しめる場所とする。

2) 具体的な活用策

① 建造物の概要

江戸町通り側を正面玄関とし、出島と類似した扇型の10階建程度の建造物とする。県庁前交差点側からは、2階～3階建の低層建造物に見えるような構造とし、長崎港方向の視界を確保する。

建物の最上階または県庁前交差点側から直接入ることができるフロアを展望用として一般開放する。

② 入居者等

建物が老朽化し近い将来建替えが必要と思われる公益性の高い企業等が望ましいと考える。

（土地は交換を想定、建設費の負担等詳細は未検討）

案1 「NHK長崎放送局」

効果：「26聖人」を、再開発後の長崎駅から直接目視できるようにし、観光客等の流れを円滑にする。現局舎周辺の狭隘な歩道・急勾配の車道を改善する等々

案2 「長崎中央郵便局」

効果：現局舎周辺の違法駐車解消・旭大橋方向の交通円滑化等々

案3 「十八銀行本店」

効果：出島の完全復元等々

案4 「長崎市役所」

効果：理由等、県庁移転と同様

③ その他

県が単独で跡地活用を行う方法が最も容易であると思うが、長崎市中心部の活性化等を考慮すると、長崎市や民間企業等との連携が必須条件であるとする。

また上記案のうち、低層階を長崎中央郵便局とし高層階をNHK長崎放送局とするなどの方法も考えられる。また、江戸町通り側に駐車場入口を設置することにより、渋滞の解消等が期待できると考えられる。更に、電力・ガス・通信等のライフラインの窓口やショールーム等を併設できれば利用者の利便性は格段に高まり、商業施設の過当競争を回避しつつ、同時に中心市街地の活性化を実現できるものと思われる。



03■ 男性（長崎市）

県庁跡地活用について

① 基本理念

- ・ 県庁跡地は出島とセットで考えるべきであり、歴史の再現を基本理念として土地利用をしてもらいたい。

② 具体的な活用策

- ・ 西役所を再現して、海軍伝習所やくんち資料館として活用してもらいたい。
- ・ 県庁地下には出島や浜の町への観光バス駐車場を造り、県警跡は日生ビルも含めて再開発を行い、地下は県庁地下駐車場やランドホテル跡地と連絡通路で結び、出口を築町側と樺島町側に設けることにより、出島資料館や元船地区と浜の町地区を結び、バリアフリーの歩行者動線として整備してもらいたい。
- ・ 再開発ビルはコールセンターや電子計算センター等に使えるような構造とし、企業誘

致を推進したらどうだろうか。

- ・ 県警跡と日生ビルの再開発を行い、種地として市役所通りの老朽化したビルの建て替え更新を行っていただけるのではないだろうか。

③周辺環境

- ・ 中島川公園・出島門及び長久橋の整備に併せて電車軌道を県庁裏に移設して、出島の南側を水面化したらどうだろうか。

~~~~~

## 04■ 50代 男性 (長崎市)

跡地活用

現庁舎は、長崎市中心地の場所ですので、建物を新設するのではなく、県民主催のイベント会場、県主催の行事をする場所としての多機能広場、また、国内の交歓交流ができる野外施設の整備、また、海外の交歓交流ができる施設も整備して欲しいと思います。

また、安心安全のための警察の大交番の設置をお願いしたいと思います。

また、周りに各市町の木、花、県の木、花を植樹して、いつでも県民広場で有り続けて欲しいと思います。

車の駐車場は、0として、少しでも、温暖化防止に役立つような、機能ある場所にして欲しいと思います。

~~~~~

05■ 70代 男性 (兵庫県)

現庁舎の跡地活用

○跡地活用に求めるもの

- (イ) 現県庁舎跡地に県警本部庁舎を移転建設する。
- (ロ) 現県警本部庁舎跡地は公共広域防災広場として有効に活用する。

~~~~~

## 06■ 60代 男性 (諫早市)

◎県庁跡地は歴史・文化的な事柄に活用すべきです。

- 現在地は由緒ある江戸町です。江戸時代の武士、町人、農民、庄屋などの家並みを再現し、出島和蘭商館跡復元整備計画と一体化して「長崎江戸村」を作ります。江戸町公園(広場)、石垣などの遺跡類はそのまま残して活用する。もちろんすべて長崎県内の木・石材づくりです。
- 長崎奉行所西役所(海軍伝習所・医学伝習所・英語伝習所)を再建し、現県立図書館の地域資料を移して長崎郷土資料館にします。歴史・文化・産業・社会など長崎

学の拠点にします。

また内外の観光客に対応する「国際観光案内所」の機能も持たせる。内外の観光客で賑いがあり、江戸村を活性化させるためにも

- 長崎の民謡・舞踊・龍踊りなど文化伝統芸能などを常時見せる場を設ける。
- 江戸村の住民は江戸時代の服装で対応します。観光客の希望者には江戸時代の日本人や外国人の服装で散策してもらおう。また俵物などすべての長崎県産品を買ってもらおう。

◎警察本部跡地は、江戸村訪問者用の「高層立体駐車場」として活用する。

~~~~~

07■ 50代 男性 (長崎市)

日本初の近代船舶(汽船)操船術の修練所としての「海軍伝習所」及び西洋医学発祥地としての「医学伝習所」を併設する1857年(安政4年)当時の「長崎奉行所西役所」の再建(復元)がよいのではないのでしょうか。

「長崎奉行所立山役所」は「長崎歴史民族博物館」として再現されており、これと対をなした「長崎奉行所西役所」が復元されると、より一層長崎の歴史・文化の層を厚くするとともに観光客にも喜ばれることになり、長崎の観光にも役立つものと思います。

この当時は、日本の鎖国時代の中で唯一の海外の窓口として、海外との貿易、文化交流を通じ長崎が最も潤い、輝いていた時代の最後の時期であり、長崎の文化が成熟し、隆盛を誇った時代でもあったわけです。

全国から、幕末の志士をはじめ、志を持った多くの若者が長崎に集い、西洋の学問、文化、芸術、技術、風習等に触れ、これらを貪欲に吸収し、ふるさとに戻ったり、全国各地に赴いたりして、明治維新以降の日本の発展に貢献しました。

今までそしてこれからも、多くの日本人は、この時代に憧れと時代への郷愁(ノスタルジー)そして時代の持つ熱さに惹かれていくことでしょう。

その思い・感動をこの長崎で感じ、あるいは思い出し、新たな感動を得てもらうために、その舞台(シチュエーション)を設ける必要があると考えます。

その舞台(シチュエーション)のひとつとなるのが、「長崎奉行所西役所」だと思います。

~~~~~

## 08■ 50代 男性 (長崎市)

まず、市役所建替えの仮移転場所として活用する。

市役所の建替えが完了した時点で解体し、地下に駐車場を、その上部は芝生広場として整備し、幕末の龍馬が活躍した時代に若者が海外に夢を託したイメージをモチーフに、出島から海、さらには海外が見える丘整備を行う。



そうすることで、中心部の商店街や出島、さらには水辺の森でのイベント時の駐車場や都心部に「市民の憩いの広場」を確保することができ、最小の設備投資で最大の効果を得ることができる。

~~~~~

09■ 30代 女性 (五島市)

駐車場と、展望台付きのタワー(長崎タワー?)

長崎県庁は建物も古いので、県を代表する庁舎として新しく近代的で、県民が気軽に行けるような建物に早く建て直して欲しいです。

~~~~~

#### 10■ 50代 女性 (五島市)

観光イベントに利用できる広場。(おくんち、物産展などに活用できる場所)

県庁舎は建物も古いので、長崎県のシンボルになるような建物を早く建設して欲しいです。

~~~~~

11■ 40代 男性 (埼玉県)

先日、家庭の事情で長崎市を訪れた際、長崎市内を観光したのですが、長崎の歴史と町並みに深く感動しました。

そこで、長崎のことをより知りたいと思い、当ホームページを拝見しましたところ、県庁舎の跡地の有効利用について意見を求められていましたので、県外の私ではありますが、日本の宝物といえる長崎県に少しでもお役に立てるような事したいと考え、ここに愚案を記させていただきます。

1. 長崎県庁の所在地について

私が宿泊したのは長崎バスターミナル側のホテルでしたが、地図を見ますと、その周辺に県庁の本庁舎が在ることを知りました。

思うに、長崎に来る観光客の殆どは飛行機を利用し、リムジンバスかタクシーで市内に入ると思うのですが、そのような観光客の出入口となる場所には庁舎ではなく、より観光客相手の施設を充実させた方が良くはないでしょうか。

また、懇話会の資料を拝見しますと、県庁施設が所々に分散してしまっており、県の機能が十二分に発揮できない環境にあると考えられます。

そこで、庁舎を新たに建設する際には、現在の場所に再築するのではなく、県民の便を考慮しつつ、県の仕事に従事する方達が、横の繋がりや縦の繋がりを十分に発揮できるよう、ある特定の他の場所に総合県庁施設を設置すべきと考えます。

2. 庁舎跡地の具体的な有効利用について

出島は、「長崎と言えば“出島”」といわれる程有名ですが、私が観光した感想としては、実に中途半端な扱いを受けていると思いました。確かに、出島は昔からあの場所存在していたのですが、長崎の都市開発が進んでいるにも拘わらずあの場所だけを中洲のように取り残してあるのは、観光客としては今一つな感じを受けました。

そこで、観光客やこれからの長崎県を背負う子供達に、出島が日本でどの様な役割を果たしてきたのかを教えるためにも、出島を庁舎跡地に移設し、庁舎跡地を歴史的に有効活用すべきと考えます。

以上、長々と駄文を記してしまいましたが、長崎県を思うが故の事ですので、お許し下さい。

それでは、今後とも長崎県が日本の歴史の語り部として生き続けるとともに、益々発展していくことをお祈り致します。

失礼致します。

~~~~~

#### 12■ 30代 男性 (南島原市)

現庁舎の跡地活用について

現庁舎の立地や時代的背景を勘案して、複合施設が望ましい姿ではないでしょうか。

テーマは環境・エコ・安全・にぎわい・継続性です。

1階今盛り上がっている長崎さるくや観光の活動拠点

災害時水辺の森公園が非難場所に指定されたときの支援施設

2階3階一採算性を考慮して立体駐車場

屋上—市民いこいの広場・屋上緑化・太陽光発電

※近隣に史跡出島があるので外観は周囲の景観に配慮する。

(全体の高さを押さえて遠くまで視界が広がるようにする)

アクロス福岡の事例のように出島側はステップガーデンにしてみても

※バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮する。

長崎市役所側の段差を利用して屋上の広場に直接アプローチ出来るようにする。

~~~~~

13■ 50代 男性 (五島市)

中心街にあるので、おくんち、港祭りなど観光行事に利用できる展望台付き屋内イベント広場

新しい県庁舎の建設を希望します。

~~~~~

#### 14■ 30代 男性 (南島原市)

跡地利用には様々な建物や建造物をイメージしてしまうが  
下記のとおり、案をあげます。

- 1 観光(県内)の案内施設
- 2 県内市町の長崎事務所の設置
- 3 公園
- 4 民間への払い下げ
- 5 民間へのリース

~~~~~

15■ 40代 女性 (東京都)

長崎で生まれ育ち、現在は東京に住んでおります。

県庁は父も勤めておりました。

県庁の坂を登りきって、出島の方へ降りる。

丁度高台にある県庁。

とても思い出深い場所です。

あの跡地であれば、少し高めの展望レストラン(品のいいもの)や、ライブイベント会場や演劇スペースなどいかがでしょうか。

展望レストランになると、海も見えてステキだと思います。

~~~~~

#### 16■ 50代 男性 (長崎市)

現庁舎の跡地活用についてのアイデア

○具体的な跡地の活用策について

現庁舎は、長崎の中心部に所在しており、ショッピング、街歩きをはじめ、様々なパターンの発着場所として最適地であると思われます。この場所を長崎の三大産業のひとつである「観光活性化」の手段として使用することが、『街の活性化』に結びつける最良策となるのではないのでしょうか。

◎複合目的の高層ビル(或いはタワーと建物併設)を建設し、以下の施設として利用

建設するためには当然相応の費用は見込まれますが、先行投資することで将来街全体が潤うものと仮定して、以下のことを提案いたします。

A 観光施設や中心商店街の駐車場不足を補う。……地下

ご存知のように、長崎市内の観光地及び中心部の商店街は駐車場が不足気味です。

特に、『ランタンフェスタ』・『おくんち』などの観光イベントでは、観光客から「駐車場に困った」という話をよく聞きます。普通車のみならず、大型観光バス等が駐車

できるパーキングエリアの確保は長崎では重要課題だと思われます。地盤等可能であれば、地下収納型の駐車場を造られては如何でしょうか。

B 各観光施設へ向けたシャトルバスの発着点とする。……地下 or 1 F

上記 A を実行する場合、若干遠方(平和公園、外海地区など)の観光施設(観光場所)へはシャトルバスなどを運行すると交通の利便性が促進され、「観光都市・長崎」のイメージアップに繋がると思われます。

C 総合案内所を設置し、当該地を拠点とした観光コース・ショッピングコースを設ける。……1 F

上記のとおり、当該地は長崎の中心部=どこを回るにしても最適地。そこで、総合案内所を設置し、当該地を拠点とした観光・ショッピングなどのコースを設けて観光客に紹介。そうすることで、中心部を中心に街が活気づくのではないのでしょうか。

D 大型イベント会場を設ける。……1 F

現在、長崎観光の目玉である『ランタンフェスタ』等といった屋外イベントは天候に左右されたり、会場が中心部から若干離れた場所(長崎公園など)で行われたりしていますが、天候に左右されず、かつ中心部で開催されるのが妥当だと思われます。

1階部分を自然環境に左右されない大型イベント会場(或いは屋根付きのイベント会場)として設置すれば良いのではと思います。

E 歴史建造物として活用。……外観

当該地は、海軍伝習所・西役所跡地でもあることから、それに相応しいデザインをもった建造物とするのが良策でしょう。

F 歴史街道を再現するフロアを設ける。……2~3階(例)

海軍伝習所・西役所に因んだスモール街道的なものを再現したフロアを設け、写真撮影等が楽しめる、関連資料が閲覧できるようにするのが良いと思います(ただの箱物展示場ではなく、楽しめる観光施設が必要)。

G 展望レストラン、展望タワーを設置。……高層階

上述のように、当該地は長崎の中心拠点。各観光地をはじめ、長崎の山・川も展望でき、一目で長崎の街並みが見渡せる場所です。ここに展望施設だけでなく、レストラン・土産店等を高層階に設置すれば、特上の観光スポットになると思います。

以上7点を設けた複合目的の高層ビル(或いはそれに準じるもの)の建設が良策と判断し、ご提案いたします。

~~~~~


れを払拭するほかには手がないと思料される。

上記の2点を踏まえて、跡地の活用策の一環として以下の点をご一考願います。
県庁移転後、旧庁舎を取り壊した後、しばらくの期間は、跡地の一部分を地元商店街の町並みの改善や、ここの建物の再開発・リニューアルなどのために必要になる仮店舗設置などのスペース（立地条件は大いに優れていると思慮されます。）として確保すること。

期間やスペースは決して長くも大きくも必要はないと思います。再整備が終了した後はよりよい利用方策の種地として活用するべきです。地元もあれだけの意見を申し述べたのであれば自助努力は誰が考えても必要だと思料します。是非それを促すためにも地元も含めてご検討をいただきたいと思料します。

20■ 50代 男性（長崎市）

長崎県新庁舎には、県民が自由に集い、憩える施設を併設してほしい。
長崎駅と美術館(水辺の森公園)を結ぶ導線にあり、長崎の一等地であり、県民も、観光客にも満足できる空間としたい。

建物の中に、コンサートホール(例えば福岡銀行本店地下のコンサートホールのなもの)や会議場(できれば国際会議もできるレベルのもの)やイベント(籠踊りなどの観光イベントもできるもの)などに活用できる多目的ホールを造ってほしい。

また、周辺はできるだけ緑地(芝生)として、無料で寛げるテラスやベンチ、さらには観光案内所などの設置が望ましい。

21■ 70代 女性（大村市）

跡地活用

現在の県庁の場所は、一等地であり、歴史的見地からしても由緒ある所ですので、しっかり考えるべきです。高台になっていて、すぐ裏手は崖下で、海に面してその先に出島が造られた場所です。

この崖下に、最初の教会が建てられ、この岬から4少年も船に乗って遠くローマへと旅立って行ったのです。

それ等を考え合わせると、長崎のキリシタンの出発地点であり、根拠地でもあります。従って、今の出島と連動して外国人居留施設並びに、キリシタンのコレジョ又はセミナーオ等を建設し、目で見、話を聞いて解る教育施設を造って欲しいのです。

全国の小、中、高校生や、一般の学びたい大人向けに開かれた場の提供という、寄り易いものにしてもらいたいと思料します。

現在の県庁周辺の官庁街や商店街は、県庁のおかげで繁栄してきましたので、その利害関係で移動を反対していますが、これは、一部の利己的なものだと思います。

これから先、百年の構想でもって、古き長崎の歴史を守り育てるという意味で、善き企画を立て、美しい公園広場を含めて建設して欲しいと思料します。

22■ 70代 男性（兵庫県）

跡地活用に求めるもの（あるべき姿などの基本理念）

現庁舎は長崎市の中心地に在ります。

跡地には県民局等設置し、最上階には360度パノラマにし、長崎県民・地方からの旅行者等が利用できる施設であればと思料しております。

県内においても離島の人たちとの交流。離島の人たちが気軽に施設を利用できる所であって欲しい。

長崎はどんな街かと質問されたら、いろいろ言い方があると思料します。

宗教の街・文明発祥の地・観光の街・水産業の街とか長崎の魅力を出して欲しい。

県民の憩いの場所であり、長崎県の発信地であって欲しいと思料しております。

23■ 40代 男性（諫早市）

跡地活用について

【跡地活用】

<目標：便利な長崎>

県庁の跡地はズバリ、新幹線と在来線の長崎駅

現在の長崎駅を廃止する

<理由>

- ・現在の長崎駅は浦上駅に極端に近く、路面電車の停留所でも3個分しかない
- ・高速道路入り口（出島道路）に近い
- ・長崎市内の真の中心地がこのあたりになる

<アイデアとしては>

- ・駅自体は可能な限り地下とする
- ・地上にはバスターミナル・ショッピング・宿泊施設・各種アミューズメント

24■ 60代 男性（新上五島町）

世界的経済不況と云われている中、ご多分に洩れず、日本国中、不況のどん底に陥っている。

まして、日本の最西端に位置する長崎県、その中の離島である五島列島は急速な人口減、

少子高齢化が進み、五年前の合併後の人口は四〇〇〇人減という、驚異的な過疎の進行状態に陥っている。

唯でさえ職業難の中、一家の主は都会へ出稼ぎではなく移住し少ししか居ない若者は職を求めて右往左往、少しの年金での暮らしの親の脛をかじり、諦め切った顔つきでフリター続行中が現状で、国民年金どころか国民保険、町県民税さえも滞っている。

さて、そんな中での県庁移転、そして移転後の跡地活用方のアイデア募集であるが、先ず、現在の県庁所在の位置付けから言ってもその地域の人口減（経済的希薄）に陥らないように考えなければならない、その為には、県庁が移転してもそれに代わる施設や集客（繁栄）が現状維持かそれ以上の希望の持てる（施設？）でなければならないと思う。

それと離島県長崎である以上、長崎港を起点とする長崎の離島である五島列島の経済効果も考慮しなければならない、そのこと自体が、観光県長崎としての繁栄であり、五島列島を観光の島として売り込むことが、長崎の経済効果でもあると考える。

新幹線導入が実現すれば、当然のことながら、集客数は上がるかもしれないが、その反面、日帰り客もそれ以上に増すと思われる。

長崎市や五島列島の泊数を増やすには時間の掛る離島に足を向けさせることが一番の経済効果で、それに伴い五島の雇用も促進できると思う。

それには、県庁跡に観光総合情報センター（仮名）等々を設置すべきと思う。総合観光情報の拠点としては最高の位置と考えられる。

兎に角、長崎県独自で生き抜かなければならない時代で、自活力を求められる時代一致団結して頑張る以外にない。

25■ 20代 女性（長崎市）

（庁舎を取り壊し跡地の利用ということで考えました）

周囲が浜の町や駅などそれぞれ近隣に施設が整っており何かを建てて商業施設にするのもいいのですが、集客を求めるなら既存の商店街や中華街、もちろん県庁、市役所、夏は港のイベント、ランタンフェスタ、一部の道が大変混んでおり、また 駐車スペースに限があります。

（今中華街付近の工事が駐車場づくりならすみません）

これらへ行く為の交通をスムーズにする為に思い切ったメインを駐車場や後で記載しますウォーキング他イベント等の集合場所にし ここから目的地へ行く為のスタートや道の駅のような存在になればと思います。

中央橋付近の渋滞を、市役所前、県庁前、夢彩都、県美術館（こちらが交通量が少ないです）へ二分化させ渋滞を半減。

ただの駐車場ではつまらないので地産地消物産館（観光客??地元対象）でわざわざ立ち寄りたくなる駐車場にしたいです。

県庁跡地からはなるべく健康や付近の店への立ち寄り、エコの為に歩いてほしいので

県庁迄の道をウォーキングロードや水辺の公園までの道も歩いたりできるように花の道やコース〇〇km看板道路の色にラインをいれて積極的に楽しく散歩できるコースを作り、平日の集客もみこみます。つつい歩けるようにするのがポイントです。

新県庁付近の集客数も上げます。新県庁でウォーキング講座やみんなの体操をしてもおもしろいと思います。

他のウォーキング大会やさるくなどと絡めたイベントにしたらぐっと有効活用されると思います。

レクリエーションとしてもウォーキングをみんなで例えば女神大橋まで歩いてもいいし、国体へ向けたイベントをこのスペースでもいいのではないかと思います。

龍踊りの場所としても賛成です。

結論は立体駐車スペース、広場、物産館

欲をいえば 立体駐車スペースを長崎らしい造りにしたいです。

わざわざ立ち寄りたくなる、休憩もできる、立ち寄ってからさるくまわりたくなる。

そんな跡地になればいいなと思います。

26■ 40代 女性（長崎市）

1. 跡地活用に求めるもの

今の長崎の賑わいは県庁坂を境に、浜の町地域と大波止～駅前地域とに二分されており、街全体を小さく見せている要因の一つになっていると思います。

このままでは、出島の復元やメルカ築町の整備を活かすことができなくなるのではないのでしょうか。

駅前⇄大波止⇄県庁裏（県庁坂）⇄浜の町という市街地中心部が一体となるような人の流れを作り出し、賑わいのある魅力的な街づくりが必要だと思います。

そう考えたとき、現庁舎跡地は丁度両地域の間地点で人の流れを分断しないための重要な位置に当たります。跡地利用に際しては「必然として人々が利用するもの」や「現在から将来に向けて人々から求められるもの」を整備し、ここを起点に両方向へ移動する又は中継して移動するという流れを築くべきではないでしょうか。

2. 具体的な跡地の活用策

- 市庁舎の移転と防災センター
- 観光センター、バスセンター
- 大型駐車場とくんち広場（公園）としての整備
- 公営カジノ等娯楽施設

27■ 30代 男性（長与町）

県庁舎跡地を観光施設、並びに、ショッピングモールとしての施設としての建設を提案します。

まず、観光施設としては、最上階に長崎市が復元をしている出島並びに女神大橋など長崎港が一望できる展望施設や展望レストランを作ります。

展望施設は、長崎港から稲佐山、金毘羅山や彦山まで360度一望できるものが望ましいと考えます。

また、レストランについては、四海楼さんの展望レストランのようにし、中華、しゃぶしゃぶ料理など長崎にちなんだ料理店をテナントとして入居させます。

次に、観光施設として、長崎西奉行所を復元します。

おもに、外港の歴史、出島との人の行き来など紹介する施設です。特に、先に述べた展望施設と連携し、現在の眺望と昔の眺望（CG）で比べることによって、よりわかりやすい歴史がわかります。

また、復元が待たれる出島、長崎歴史文化博物館、大波止ターミナルから出向する遊覧船などとも連携します。

このように、展望施設、長崎西奉行所、出島（復元施設）、歴史文化博物館との連携の拠点とすることによって、長崎をまる1日または、数日、じっくり観光できるための支援を観光客に行い、長崎市内での宿泊を啓発します。

そのためには、2～4階を貸し切りバスが収容可能な大駐車場を完備します。

そうすることによって、路面電車やコミュニティニティーバス、徒歩（長崎さるく）での市内観光を可能にします。

そのためにも、路面電車の線路の移設（大波止～築町）し、この1階にターミナルを設けます。もちろん、コミュニティバスもです。

このように、長崎観光の拠点とする施設を造るのです。

（例）

- 7階 展望所
- 6階 展望レストラン（テナント）及び 県産品販売店
- 5階 ショッピングモール（テナント）及び 駐車場
- 4階 ショッピングモール（テナント）及び 駐車場
- 3階 長崎西奉行所（観光施設）及び 駐車場
- 2階 長崎西奉行所（観光施設）及び 駐車場
- 1階 路面電車及びコミュニティバス停留所、出島との連絡通路

上記のようにすることによって、長崎市内観光の拠点、また、長崎県民のショッピングモールにすることによって、観光客と長崎県民が利用できる施設にします。こうすることによって、思案橋、長崎浜町商店街、築町商店街、夢彩都の点が線として結びつく訳です。

これまで出ていた反対意見も少しは緩和すると考えられます。

この提案の一部でも、取り入れていただいて、住みよい長崎、魅力ある長崎、観光しやすい長崎の実現をしてほしいと思います。よろしくお願ひします。

28■ 30代 女性（長与町）

県庁舎を国際会議場として活用することを提案する。

500人規模の大会議場が1つ、100人から200人の中会議場が5つ、委員会用の小会議場が5つ必要な場合が多い。

現在、設備が十分に整い、大人数を収容することのできる会議場がないため、ホテルを利用したり、小規模に抑えてブリックホールを利用するなどしている。

もし、県庁舎を再活用することができるなら非常に条件が良いと考える。

第1に、OA機器の設備、会議室などがそのまま利用でき、部屋数も多いだろう。

第2に、ホテルや飲食店が多く、県外や国外の参加者が快適に過ごせるだろう。

第3に、交通の便が良く分かりやすい。又、今の庁内に食堂があれば、会議中のコーヒーブレイクやパーティーにも活用できるだろう。

国際会議が行われれば、多くの県外や国外のお客さんを長崎に誘致することができ、経済効果が大きく、県や市のアピールにもつながると考える。

九州で国際会議が行われる場合、大きな専用会場がある福岡が候補に挙がるが、長崎は観光地として有名なので、設備さえあれば、十分に会議の誘致が可能と考える。

煌びやかな設備は不要なので、ほとんどそのまま無駄なく会議場として再活用できるのではないかな。

29■ 50代 男性（西海市）

低額の駐車場

30■ 30代 女性（長崎市）

跡地活用には、近辺がオフィス街という事もありますし、今まで、県庁付近で営業されていた飲食店などあるので、複数入居出来る様な、オフィスビルや出島に出来た様な、AIGの様な大きな会社などが良いと思われれます。

31■ 50代 男性 (西海市)

港の見える丘公園として市民・観光客に開放し、長崎市の街並・港の景観・夜景を楽しんでもらうようにしたいかがでしょうか。

32■ 30代 男性 (西海市)

坂のまち長崎は、住宅が斜面地に密集して立ち並び美しい夜景を演出しているが、客観的に見ると老朽化の著しい住居も多くバラックさながらの建物も見受けられる。

立地場所を考えると建替えコストも相当かかり、現地建替え自体が不可能なのではないかと思うような物件も存在する。

また、高齢者が斜面地において生活することは体力的にも厳しく、将来このような場所に住んでいる高齢者を中心に、より生活利便性の高い中心市街地への移住ニーズが増加してくるのではないかと。

現実的に佐世保駅周辺の新築マンション等には実際に高齢者の入居が目立つ。(高齢者等のニーズに則した住環境の整備)

全国的にも中心商店街の疲弊が問題化しており、実態について詳しくは分からないが、長崎市でも中心商店街である浜のまち商店街の人の流れや売上の減少は深刻なのではないかと推測する。これは安価な郊外住宅地への人口移動だけでなく、競合する商業施設の近隣への進出等も大きな影響を与えており市場原理に基づく競争に敗れた結果ともいえるかもしれないが、改善策として中心商店街への歩行によるアクセスが可能なエリア内に新たに一団の住宅を整備し、居住者を確保することにより、地域内での消費のパイを拡大することも必要ではないか。

なお、これは県庁移転による周辺地域経済へのダメージを軽減する直接的な効果もあるのではないかと。(中心市街地活性化の観点)

現県庁周辺には公共施設や商業施設、交通機関も集積しており非常に利便性が高く、居住地として魅力的である。(県庁跡地の魅力)

新たな公共施設はある程度充足しており、特に新たなものは必要性がない。(公共施設の不要)

商業施設等の集客を目的とした施設を建設した場合、交通混雑を引き起こしやすい場所のように感じる。(商業施設の不要)

新庁舎建設自体に多額の経費がかかることから、県主導の再開発には無理があり、できることもかなり限定される。(財政負担ゼロ・不要資産の売却による収入がプラス)

長崎県都市計画課のまちなか再生のコンセプトにも合致する。(県の方針との整合性)

以上の観点から、県庁跡地を住宅(マンション等)地に用途を限定したうえで民間企業等に売却することを提案する。

33■ 30代 女性 (雲仙市)

①公営駐車場の設置

なによりも駐車場に窮している地域であり、また、跡地の維持費としての収入源としても公営駐車場の設置をのぞむ。(江戸町公園への利用者も駐車できるよう配慮は必要)

②道路整備

現在「通り抜け禁止」となっている庁舎敷地内であるが、通り抜けができるようになると、渋滞緩和や利便性があるように思われる。

①・②が叶えば、「出島」へのアクセスも容易になる。
長崎市役所付近から、「出島」へはどうしても県庁を起点として周回しなければならず、不便。また、県庁前の道路の進行矢印にいつも迷っている車が見受けられる。
県庁で行き止まりになっている状態を解消してほしい。

③会議室設置

公的機関を含め、利用しやすい会議室の設置を。

以上、よろしくご願ひ申し上げます。

34■ 50代 男性 (長崎市)

県庁舎跡地の活用策として、新市役所の建替え用地として提案したい。

- 理由：1. 現市役所の老朽化
2. 現在点在している施設の集約化による、市民サービスへの向上
3. 建物の耐震工事が極めて大変である
4. 設備の老朽化

以上

35■ 30代 男性 (新上五島町)

『物産・特産品センターとしての活用』

- ① 県内の文化、歴史、特産品等の展示や販売。
 - ・ 観光の拠点施設とし、市町ごとに展示し、プチ旅行を楽しむ。
 - ・ 観光につながる会社等の紹介。
- ② 継承者不足に悩む郷土芸能等の公演。
 - ・ 郷土芸能等の振興を図るため、入場料をいただき、団体の出演料(旅費等)をまかなう。
 - ・ 各団体の交流を深め、県外での開催へ発展させる。

36■ 40代 男性 (長崎市)

県庁跡地が歴史的、文化的に非常に価値の高いものであるということは、誰も異論がないと思いますし、跡地利用はそれも基本にして、復元整備が進んでいる出島と連携した「歴史公園」という方向性には、大賛成です。

その中身について、少しアイデアというか、希望を述べたいと思います。

- 西役所を石垣も含めて忠実に復元するか、これまでの重層的で劇的な歴史を体感してもらうために、そこに建てられていたそれぞれの建物を全て年代順に復元していき、建物内に資料などを展示する(ミニ明治村、ミニ映画村の長崎バージョンをつくる)。復元は一度にするのではなく、年代の古い順に時間をかけて復元していき、復元の様子を一般公開していく(20~30年の計画)。
- 海軍伝習所等をもとに、現在の長崎伝習所を設けて、地元の子供や学生はもちろん、世界中の人が自由に学び交流ができて、インターネットなども利用できる学習室、ディスカッションができる空間、コンベンション施設をつくる。
- 若者がライブを開いたり、市民グループが自由にコーラスやコンサートができる屋外のミニコンサート場を作る。
- 水辺の森公園の岬バージョンとして、長崎港を見下ろせる展望台の他は思い切って何も作らずに、芝生と木々を植えて公園とする(気持ちのいい素敵な公園にして、グッドデザイン賞を目指す)。
- おくんちや県内の伝統芸能を一堂に集めた資料館をつくり、山車や衣装を展示する(グラバー園にある伝統芸能館の拡大版)。山車や衣装の無料の保管庫をつくり、維持補修を援助することで、おくんちができなくなると移転に反対している人達の不安を少しでも和らげることができると思います。

以上、思いつくままに挙げました。

長崎の政治、文化、歴史の中心地であった場所です。

県庁は移転したけれど、跡地がよく整備されて本当に良かったと県民や市民の皆さんに心から思ってもらえるようなものにしてください。

37■ 30代 男性 (西海市)

県営駐車場として利用するのはどうでしょうか。

浜んまち、水辺の森公園など主要施設等の中心で、長崎くんちや精霊流し、ランタンフェスティバルへの来客者へも有効に利用できるとおもいます。

隣接して県営バスやタクシー乗り場を設置すれば公共交通機関の利用もあがると思います。

あと県営の素泊まり宿(または国民宿舎)を考えましたが、県庁前にあったグランドホテル等を考えると周辺のホテル業の経営に影響を与えるとおもいましたので却下ということ。

ありきたりな意見ですみません。

38■ 50代 男性 (長崎市)

現庁舎の跡地活用について

当社は、(人、街、暮らしの価値共創グループ)としてともに新たな価値を創り、活かし、高め、人が心豊かに生きる社会の実現を目指します。

現庁舎敷地の歴史を踏まえ、又、これからの長崎の更なる発展を考え、提案をさせていただきます。

1. 県立伝統工芸館と国際文化会館、ホールを1階から3階、4階はコンベンションホール、5階から10階(民間によるホテル等の宿泊施設)
2. 県立劇場の設置(幅広い文化交流の場として相応しいのではないのでしょうか。)
3. 県立病院や子供病院があればよく聞く話です。

以上

39 ■ 30代 男性（福岡県）

観光立県 長崎のブランドを凝縮したテーマパーク”コン★バクト ながさき”

長崎県のブランドと言えばやはり、”観光”と思います。

しかし、最近では”長崎さるく”など人気を博しているとはいえ、地域間競争力の激化から、全盛期ほどの集客力はないのが現状だと思います。

観光産業は、裾野の広い産業であり、長崎経済の立て直しを図る上では最も効果的ではないかと考えます。

そこで、県庁舎跡地の活用策として「観光立県 長崎のブランドを凝縮したテーマパーク”コン★バクト ながさき”」（仮称）をご提案させていただきます。

■「コン★バクト ながさき」のイメージ

- 長崎県を以下のエリアに分け、庁舎本館、別館を各エリアの様々な情報発信拠点とする。
長崎エリア（本館 2階・3階）※長崎さるくの総合窓口も設置
佐世保エリア（本館 4階）
平戸エリア（本館 5階）
雲仙・島原エリア（別館）
五島エリア（別館）
その他、近隣地域のPR会場も設定
※本館 1Fは総合案内として活用。
- 各エリアでは、食（グルメ）、歴史、観光スポット、イベント、お土産品などに関するPR情報（映像等）を発信するとともに、試食コーナー、手作りコーナー（カステラ、干物、うどん、ビードロ、はた、バーガーなど）、歴史の語り部（原爆、竜馬、鯨など）コーナーなど、各エリアの“プチ体験”ができるコーナーを設置する。
- 旅行代理店とも提携して、その場で気に入ったエリアへのツアーへの申し込み、宿泊施設の予約ができるコーナーを設置する。来場したエリアでは、ツアー料やお土産の割引クーポンを配るなどのインセンティブをもうける。
- 時々、キャンペーンとして、九州他県やアジア各都市の特設コーナーも設け、他地域との連携拠点としての機能も発揮する。
- 期待できる効果として、
 - ・修学旅行生など団体客の自由行動の人気スポットとなる。
 - ・“とりあえず長崎に行ってみよう”という人たちを誘致して、次回、気に入ったエリアを訪れてもらう疑似リピーター効果
 - ・県内各地の情報を集約することで、長崎の交通条件の悪さを軽減でき、効率的に県内PRができる。
 - ・各エリア同士の創意工夫による「競争」があることで、県内の観光力向上が図れるとともに、各エリア間の連携も期待できる。

- ・また、各エリアの観光リーダーが集まることで、県内観光に関する統一的なルールや取り組みの検討などを効率的に行うことができる。

○ 考えられる課題と解決方策

- ・大型バスを含めた駐車場の確保 → パークアンドライド（公共交通機関との連携）による対応を基本。
- ・各エリアのコーディネーター人材の確保 → 観光人材育成事業等を活用
- ・施設の整備、運営費の確保 → 既存の設備を活用。整備主体は各エリアの自治体や主要企業に任せる。また、各エリアのボランティアなどを活用する。

長崎は、本当に観光地として魅力的な地域が多い県です。それぞれが違った魅力、面白さ、食文化を有しています。

「リトルながさき」そんな長崎の多様な魅力を一度に味わうことができます。

また、県内の連携、他県との連携、アジアとの連携による“観光の面的広がり”の中心拠点として位置づけられる施設になると思います。

新しい発想による斬新かつ効果的な活用方法を期待します。

■ “コン★バクト ながさき”の意味

com・bination : 県内、近隣地域、アジアの各都市との「結合、組合せ、団結、共同、チームワーク」の拠点として

im・pact : 全国やアジア諸国に「刺激、影響」を与える

compact : 「ぎっしり詰まった、質の密な、コンパクト」な長崎の象徴的施設

40 ■ 30代 男性（長崎市）

県庁跡地活用案

現県庁の土地を更地にした後、浜町と大波止をつなぐ中間地点に、都市公園を整備する。ただし、公園には余計な遊具等を設置せず、子供達が裸足で遊べることを念頭におき、芝生を張るものとする。

また、敷地の一部を石畳とし、「くんち」で使用できるようにする。

その他、公園には、当該地の歴史的重要性を示した説明板を設置し、周知啓発を図る。

○ 都市公園の整備による効果

- ・芝生のみを整備により、維持管理費用を必要最低限に止める。また、現在植栽されている樹木は現状のまま遺し、木陰を部分的に残す（新たな植栽は行わない）。これにより、未調査箇所の埋蔵文化財の保護を目指す。

- ・「くんち」の踊り場を整備し、より多くの観衆に接してもらう場を提供することで、伝統文化の普及につなげる。
- ・都市の中心部に大型の都市公園を整備し、土地活用に余裕を持つことで、災害時に備える。
- ・浜町と大波止の導線に都市公園を整備することで、浜町ブロックと大波止ブロックの商業地帯に流動性を生じさせる。

○説明板の設置による効果

- ・教会、西役所から海軍伝習所に至る歴史的な縦軸の理解とともに、出島や長崎奉行所などを始めとする歴史的な横軸の理解につながる。
- ・歴史的な重要性をもつ当該地を、歴史的な整備と全く別物の整備を行った場合、第三者の理解（整備の整合性）が得られにくい。このため、当該地を一つのハブ的機能をもたせ、説明板により出島や立山の長崎奉行所（現：歴史文化博物館）など、この地に関連する場所を紹介することで、当地から関連地へ人の流れを生む。
- ・長崎市が設置している文化財説明板と同型式を設置することにより、所管が変わることによる意匠の相違をなくす。

○問題点

- ・県庁下に位置する江戸町公園とも連動した整備が求められるため、長崎県と長崎市の協働が求められる。
- ・ホームレスの公園への定住が想定される。
- ・芝生の管理委託を行う必要があるが、一者で広大な敷地の整備を行うことができるか。
- ・被爆遺構が敷地内にある場合、取扱いをどうするか。

41 ■ 30代 男性 （佐世保市）

跡地は公園として活用してほしい。

公園は英国チェルシーフラワーショウ3連覇の石原和幸さんに設計してもらいたい。みんなに愛され、なおかつ日本に誇れる公園が街の中心にあったら、一県民として嬉しい。公園として活用することは、ある一面贅沢で絵空ごとのように思われるかも知れない。

しかし、長崎は街中に緑が少なく、街のイメージが固いし、息苦しい。跡地に何を作るのが望ましいかという考え方もひとつの案だと思うが、何があったらうれしいかという考え方もあっていいのではないかと思う。

42 ■ 80代 男性 （長崎市）

現庁舎の跡地活用について

具体的な跡地の活用策

「長崎」は、フランシスコ・ザビエルに始まる「イエズス会」のキリスト教布教、ポルトガルとの交易に端を発し、1570年、日本初のキリシタン大名「大村純忠」の命により、開港されたことにより始まります。

新しい町の先端には「岬の教会」が建設され、6町で開始され、その住民のほとんどは、各地で迫害・追放されたキリシタンでした。ここに「キリシタンの町＝長崎」が始まりました。

1580年、大村純忠は長崎6町と茂木をイエズス会に寄進、多くの教会が建設され、「小ローマ」を呈します。

しかし、1587年、秀吉の伴天連追放令、1614年、徳川幕府の禁教令により、教会のほとんどは破壊され、多くのキリシタンが殉教します。

1634年からは「出島」建設が開始され、1635年、日本人の渡航、帰国が全面的に禁止され、「長崎」は唯一の外国（オランダ）との交易の窓口として、幕府の直轄地として運営され、1859年、横浜、函館が開港されるまで続きます。この期間、県庁の地は長崎奉行所西役所として、出島の監督署としての役目を果たします。

幕末には海外使節との引見の場、そして海軍伝習所、医学伝習所と近代科学の窓口となり、幕末から明治へと近代日本を築き上げる多くの偉人が闊歩しました。

また、「長崎」は広島とともに原爆を体験した都市です。

このように「長崎」は450年弱の歴史で日本の他都市とは大きく異なり、非常に多様な体験をしています。

特に、現県庁舎の地は、「岬の教会」～「長崎奉行所西役所」～「海軍伝習所、医学伝習所」と、日本と世界をつなぐ窓口として、多くの歴史を刻んでいます。

私はこの場所の持つ意味（地霊）を大切にし、過去～現在、そして未来へとつながるランドマークとして、再整備されている出島地区と一体となった「長崎歴史博物館」、そして、県警の地は「長崎歴史研究センター」とし、文献資料等を集約し、長崎史研究を助ける施設を、さらに長崎の起源である「岬の教会」、原爆を体験し恒久平和を強く願う「長崎」の象徴として、さらに民族、宗教を超えた人類共通の願いを「長崎世界平和聖堂」として、「長崎のアイデンティティー」として提案します。

「長崎世界平和聖堂」～宗教を超えた平和を希求するシンボルとしての平和聖堂～

・ 「長崎世界平和聖堂」は長崎県庁舎と市庁舎を結ぶ、都市長崎の背骨に当たる軸上に、

長崎のランドマークとして配置します。

アプローチには、敷地の高低差に合わせた水の流れを設け、日差しにきらきら光る水面は、平和に光りを演出します。

聖堂は長崎にあることから、世界中から平和の巡礼地として、人々が集い祈ります。

「長崎歴史博物館」

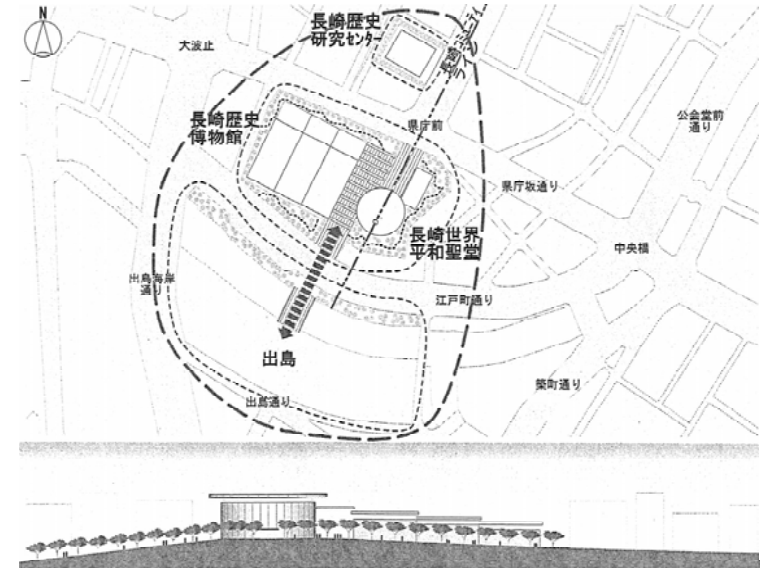
- ・ 「長崎」は450年弱の歴史の中で、日本の歴史の表舞台でその時々の影響を強く受けながら、変遷してきました。
市内には、多くの史跡、資料館がありますが、そのインフォメーションとして、来訪者だけでなく、県民・市民にも再発見、再確認する歴史博物館を提案します。
- ・ 平和聖堂前の水の流れに導かれ、各時代のフェーズをわかりやすく、展示します。
日本におけるキリスト教の布教
ヨーロッパ近代科学、文化の窓口
シーボルトを始め多くの欧米人たち
長崎、そして日本を近代化へ導いた人々、等々
- ・ また、現在南側では出島復元が進行しています。出島復元計画と一体となった歴史博物館です。
ランドスケープは緑豊かな回遊性を持たせた県民の憩いの場、また、長崎を訪れた方々もほっと一休みする場を提案します。
- ・ 多くの人が訪れ、「長崎」を話題にコミュニケーションが広がる場を提案します。

「長崎歴史研究センター」

- ・ 長崎の歴史に興味がある人誰もが利用できるだけでなく、一級の資料、情報を集約し、長崎歴史研究の拠点とします。
交通の利便性の良い当地に設けることで、より幅広く研究者を助けます。

以上のように県庁跡地活用について提案します。

このように整備することで、来訪者の観光拠点、長崎を盛り上げてくれている人々の集まるインフォメーションセンターとしての新たな都市機能を付加し、過去～現在～未来に続く「長崎」を、より豊かにアピールし、長崎への集客を助け、経済的にも拡大すると考えております。



43 ■ 30代 男性 (大村市)

公園、物産館、福祉施設、運動施設など様々なものが考えられるが、何にするにしても、どこにでもあるようなありきたりなものにするのは止めてもらいたい（それだったら、道路にして交通の便を良くした方がいいです）。

一つのことによって徹底的に特化して全国的にも有名なものになるようにしてもらいたい。

公園だったら、ドックラン用の公園やスポーツブランドと提携してフットサル公園、ロッククライミング公園と何かの専用の公園、それをやってくる人が全国から集まるような公園にしてほしい。

公的な施設にするにしても、消費生活センターや発達障害支援センターといったように、総合的なものではなく、この分野に関しては長崎が一番だと言われるような施設を作ってもらいたい。

物産館のような観光施設にするのなら、テーマを決めて建物から何からすべて統一したもの、豊後高田市の「昭和のまち」のように徹底的にやってもらいたい。

ほかにも、「シブヤ大学」のような県民すべてが学べる場を作ったりするのも面白いと思います。

期待しております。

44■ 50代 男性（長崎市）

長崎市はもともと平地が少なく、規模の大きな公園が少ない。

したがって、木々に囲まれたのんびりできる公園とし、ミニコンサートやいろいろなイベントができるスペースとしてはどうかと思う。

~~~~~

**45■ 30代 女性（長与町）**

グラバー園に伝統芸能資料館がありますが、長崎県内のお祭りを集めた「おまつり資料館」に活用してはどうでしょうか？

- 各市町村のおまつりの山車や衣裳、小道具等の展示
- おまつりの体験コーナー
- 郷土芸能の紹介・披露
- 海外・日本各地のおまつり紹介 など

名称は知っていても実際はどんなものなのか知らないものも多いので、楽しくわかりやすい郷土芸能や祭りの資料館に。

~~~~~

46■ 20代 男性（雲仙市）

● 出島が近いようなので、埋蔵文化財がないか特に慎重に取り扱っていただきたいと思います。

仮にたくさんの文化財や遺構が見つかるようなら、文化施設の建設（ハコモノに限る必要はないと思いますが）も考慮していただきたいと思います。

● そうでなければ、道路を通し、周りは緑地帯にしていきたいと思います。

~~~~~

**47■ 40代 女性（長崎市）**

県庁舎跡地は公園以外にありえないと思います。

長崎は自然に恵まれた県なのに、長崎市の中心部にはほっとくつろげる公園がほとんどありません。逆に東京は大都会で「東京砂漠」というイメージですが、新宿御苑など広々とした公園が驚くほどたくさんあります。自然はたくさんあっても、中心部にはオアシスが必要です。ぜひ県民を癒すオアシスを整備してほしいと思います。

現県庁舎がある場所は、歴史上大変重要な場所であったと聞きます。小高い丘になっているので出島やその向こうの海が一望できた場所です。昔の出島付近の図を見たときに、松の木がたくさん生えていて森のようになっていました。そのように自然を復元させればいいと思います。

跡地活用というのと、とかくなにかの施設を建てたり、お金をとって見せるものにしたりと考えがちですが、たくさん木を植えて、何十年か後にいい感じの森になるよう、自然を整備したらいいと思います。子どもたちが植樹するイベントなどをすれば、子どもたちの思い出にも残るし、みんなで作った公園としてより親しまれるのではないかと思います。できればコンクリートで固めたダサイ遊歩道などは作らずに、何か所かにお洒落な東屋やベンチをつくり、ショッピングに疲れた人や仕事をサボってる人がボーッとできるようなるべく自然に近い形で整備してほしいと思います。

浜市アーケードなどは、客足が遠のくのを危惧して移転反対運動を展開していましたが、跡地に公園ができるほうが逆に客が戻ってくるのではないかと思います。また、中心部に樹木を植える事でヒートアイランド現象の緩和にもなると思います。何かの施設ができるかと思うと、またかと思いますが、公園が出来ると思うとワクワクします。

楽しみにしています。

~~~~~

48■ 40代 男性（長崎市）

長崎奉行所（西役所）の復元と資料館の建設

理由：熊本も佐賀も地域の物心両面のシンボルとして城の復元を行っており、観光の活性化にも寄与している。

日本人の認知率ほぼ100%の出島であるが、本体、その周辺の利用は、宝の持ち腐れ状態である。

出島が鎖国時代の唯一の外国との交流地であったことを今一度認識するために、出島及びその周辺を整備する。

提案：出島周辺を「跡地」「出島」「沖合」に分類

跡地：長崎奉行所復元＋資料館（例：長崎歴史博物館）

出島側：出島の復元と呼応した奉行所の復元

長崎フィルムフィルとの協働による誘致（例：京都太秦映画村）
路面電車の引込み（タイムスリップ体験）

正門側：資料館建設

復元された出島を取込み、江戸時代の出島を再現

周囲をCG処理により海として再現
 岬の教会、海軍伝習所、県庁等の歴史も紹介
 バス、自家用車のアプローチ

出島：長崎市の復元計画を尊重(周囲の海の復元)
 河川、道路課との協働による災害にも安全な改修
 遊歩道整備(例：長崎県美術館)

沖合：唐船・蘭船エリアとして、海側からの眺望を確保
 江戸時代の外国船が見たであろう風景の再現
 景観法による、眺望、広告物、色彩の保護が必要

49■ 30代 女性 (長崎市)

跡地活用について・・・

ここ数十年、浜の町アーケードにあまり活気がみられず、県庁舎が魚市跡地へ移転してしまうとますます活気がなくなるような気がするので観光客や県民が集まるような施設を造ってほしいと思います。

勿論、大型駐車場を完備し、建物としては、観光地なので、近代的なものではなく、長崎奉行所などの復元などをしてほしいです。

中庭などを作って、大人から子供まで楽しめるスペースや、おくんちなどの出し物がみれるような施設にしてもらえると嬉しいです。

50■ 30代 女性 (諫早市)

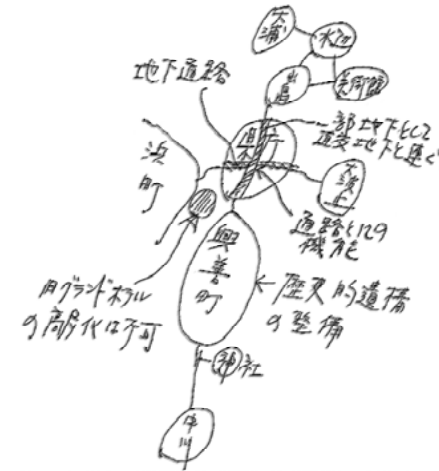
県庁舎の跡地に、地下駐車場を設けてほしい。

長崎市内は、公共の駐車場が少なくなっている(銅座、松が枝、魚市跡地がなくなった)。このため、松山運動場や平和公園、長崎歴史文化博物館のように地下に駐車場を設けてほしい。商店街や出島に近いので、県民や観光客の利用が期待できる。また、夢彩都と浜町商店街の歩行者動線を考えると県庁の坂はきついので、地下駐車場を道路(国道、県道)の下まで大きくすることで、歩行者も地下を利用できる。

51■ 50代 男性 (長崎市)

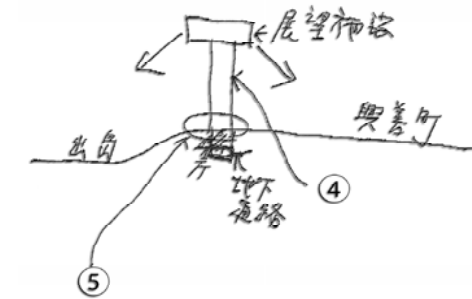
【1. 面的活用】

1. 県庁舎は左図に示すように観光施設の中心にある為、通路となるよう整備すべきと思う。
2. 長崎の歴史を感じる公園的なイメージとする。
3. 駐車場も確保する。
4. 緑地化を図る。
5. 旧遺構の発掘展示も考慮する。



【2. 面的活用】

1. 左図のように長崎全城を見渡せるような展望施設を持つモニュメンタルな建物又はタワーを造る。
2. 地上面並びに頂部に観光客及び市民が憩えるレスト施設(飲食)を備える。
3. 埋め立ての変遷、重要な遺構を展望施設で案内する。



4. 中間部の利用はよく検討する。 …… ④
5. 長崎独自の物品、特産物を提供する。 …… ⑤
6. 地下通路で大波止と浜町をフラットにつなぐ。(車路を設ける。)

52■ 50代 男性 (長崎市)

こんにちは。

跡地利用に関し、財政難の当県で、これまでのようにお金をかけて名高い建築家設計の大きくて立派な箱物等はもう建設してほしくありません。

未来環境対応の都市型「長崎平和の森公園」を提案します。

欧州文化都市に見られるような、大きな木々と遊歩道、休憩のためのおしゃれなベンチのある憩いの森です。

平和公園にあるような諸外国からの記念像で今後贈られる物とか、噴水くらいのシンプルなものはいかがでしょう。

~~~~~

### 53■ 20代 女性 （佐世保市）

私はずっと佐世保に居住しているため、長崎市の立地等あまりよくわかりません。

ただ、中心地に子供たちをつれて夏休みや休日にゆっくりできる施設がないというイメージがあります。

せっかく土地も広くあるのなら、長崎の歴史や自然を映像や遊具で体感しながら学べる施設があればいいなと思います。

鹿児島市内にある、近代文学館は、鹿児島出身、ゆかりのある作者の生い立ちを映像などでたのしめ、隣には絵本館もあり、平日でもにぎわっていました。

絵本館の方は小さな施設ですが、夢の国のように、大人も子供もすごく楽しめました！

~~~~~

54■ 40代 男性 （松浦市）

◎道州制関連

- ・地方分権（道州制）を見据えつつ、現在の県庁舎の利用できる部分に長崎振興局を移転
- ・県庁跡地利用は継続して検討
- ・道州制が実現すれば新県庁舎に長崎振興局の機能を移転

◎長崎の交流文化の魅力を高め、交流人口の拡大につなげる。

- ・世界遺産登録（キリスト教関連・軍艦島）を契機に、歴史文化博物館と県立美術館（水辺の森公園）を結ぶ歴史ある県庁跡地に世界遺産館を建設する。

~~~~~

### 55■ 30代 女性 （佐世保市）

県庁跡地は、発掘調査後、売却するべきではないかと考えます。

県庁の歴史を保存したいという気持ちは理解できますが、長崎県の財政を考えれば、県庁建替の財源として売却が望ましいと思います。

~~~~~

56■ 女性 （長崎市）

長崎奉行所西役所および出島と結ぶ橋を完全復元し、奉行所と出島にちなんだ市民参加の企画を募集する。

国際観光船入港時に「南蛮船入港歓迎」行事、毎年ランタンフェスティバルに引き続き、江戸参府行列（「カピタンフェスティバル」）など、新たなイベントや祭りも考える。

岬の先端には「被昇天のサンタマリア教会」、そして周囲の石垣も復元整備し、埋蔵文化財の展示施設、観光物産館、レストランおよび展望所として使用し、奉行所の地下には駐車場も整備する。

また、浜の町アーケードも和風建築で統一、土佐商会や清風亭も併せて復元して、出島・奉行所から浜の町、新地、復元中の唐人屋敷に至る「和華蘭散策」ルートとする。

とくに国際観光船の観光客には、日本的たずまいの中で、新旧の日本の物産のショッピングを楽しんでもらえたらと思う。

~~~~~

### 57■ 30代 女性 （長崎市）

私は、広島から結婚を機会に長崎へやってきました。

それまで長崎のことは、同じ原爆が落ちた都市としての知識や南蛮渡来の物事、坂本竜馬などの知識しかありませんでした。

長崎市内を観光するにしても数箇所回ると見終わってしまうような集中している印象を受けました。

せっかく歴史ある街なのに活かせていない。

出島も歴史の教科書で見たような離れ小島になっているのかと思いきや街に溶け込みすぎていて、ここ？って旦那に聞き返したほどです。

今県庁がたっている場所は昔キリスト教の施設があったとか、奉行所の後だとか聞きましたが、それらを元々あったように復元して体験型施設にすれば面白いんじゃないかなって思いました。

入場料はとらずに、貸衣装代を取る。ただしその衣装を着ていけばグラバー園やその他の入場料を取る施設も無料にするなど観光客が体験型観光できる施設なんかどうでしょうか。

リピーターになりやすいのは楽しかった思い出や、また来たいと思わせるようなイベントやキャラクター商品。食べ物なんかだとは思のですが、長崎って一回で満足しちゃえるような気がします。

ちょうど中心部にあり駅からもそう遠くなく、中華街や観光施設とも連携しやすい場所だと思うので、体験型施設たとえば奉行所遊園地とか作ってみてはどうでしょう。

~~~~~

58 ■ 50代 男性 (五島市)

現庁舎の跡地活用について

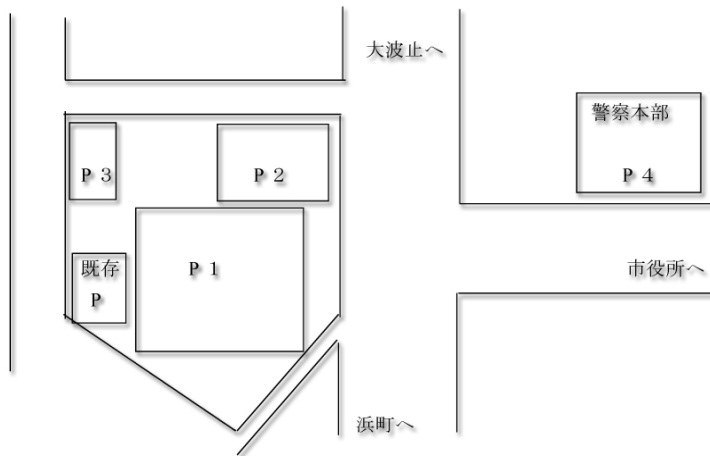
○具体的な跡地の活用策

(案) 警察を含め、全て駐車場とする。

下図のとおり4箇所ほど新設できると思われる。

(理由) 近辺に駐車場がきわめて少ないため。

(効果) 観光、買い物、ビジネス等の利便性の向上が図られる。



59 ■ 40代 男性 (長崎市)

長崎県内、特に長崎市には行ってみたい道の駅が少ないと思います。

県庁跡地は、観光都市でもある長崎市のほぼ中心となる位置で、かなりの広さもあることから、観光客はもとより、県民/市民のいこいや情報集積場所として、うってつけだと思われる。

そこで、跡地を、観光客/県民のいこいの場所、県特産品のアピールを行う場所、長崎県の歴史(過去⇒現在)や観光地の情報を集積した場所として、「ながさき道の駅」で活用しては如何でしょうか。

なお、周囲には、お土産などを販売している商店もあるため、当然、それらとの融合を意識したものであるべきことは、注意しないとイケないと思います。。

60 ■ 80代 男性 (長崎市)

1. 基本理念

旧繁華街が繁栄するという理念をもってこれに当たる。
地域格差の出ない、共存共栄の思想をもってこれに当たる。

2. 具体的な跡地の活用策

浜の町等駐車場の不足をカバーして、経済発展の促進を図る。

3. 県警本部跡地は低廉な宿泊施設を造り、観光客を誘致し、観光の発展を盛んにする。

61 ■ 60代 男性 (諫早市)

跡地活用に求めるもの(あるべき姿などの基本理念)

現県庁舎は、単に県庁というだけではなく、県及び長崎市のシンボルであると同時に、長崎市の景観の一角を形成し、歴史の重みを感じる存在であります。

この一角が長崎市から消える光景は考えられません。

跡地活用ですが、活用というよりも、跡地の使命としては、公共性のあるものに変えるべきです。

病院、学校、あえて商業地にするならホテル等、商業地とのバランスを考えるべきでしょう。

大型商業施設等にすれば、現在の築町地区、浜の町地区、大波止地区との街の街のバランスが崩れるのは必須であり、又、一番の問題は交通渋滞の原因になるのは明らかです。

現庁舎が長崎の歴史であり、シンボルであることを念頭に強く置いて活用を考えてもらいたい。

62 ■ 40代 女性 (長崎市)

○二階建ての建物 1階—駐車場+駐輪場 2階— (通常時) 身体障害者と介護者の集会センター・情報交換の場にする。 (非常時) 長崎県防災第2センター ※低い高さの建物にしたのは、屋上を使えるようにするため。 ・非常時には、包帯、さらし、シーツ等を干す場所として屋上を使う。 (もちろん、マットレス、布団も干すため。)	公用車駐車場 (そのまま) 大きく 空ける ・災害時に車が止められる。(給水車、パトカー等) 荷物の運搬などに便利 表示① (通常時) 長崎ケアセンター (非常時) 長崎県防災第2センター 表示② (通常時) 長崎中央観光情報センター (非常時) 長崎防災第1センター	(左の建物同様、低めの高さの建物にする。) 親しみやすく、入りやすい赤レンガ風の壁。 (仮定) 地上1、2階(上層) (通常時) 長崎中央観光情報センター 下階(下層) 長崎防災第1センター
	表示① 入り口	表示②

← 築町側

向い道 →
海沿いの大きな道に

(プラス)

- 内部の構造は非常時には、隙間を確保するため、戸棚、カウンター、机などは端に寄せられるようにする。
- 洗濯機も置けるようにする。
- 小さなプランターに、小さな花やアロエを植える。(ハーブもいいかも。)

長崎中央観光情報センターの役割とは

(1階) 長崎の観光案内所

案内所兼パソコンで検索できる兼、大量のパンフレットが展示できる兼、大きな長崎の風景写真が展示できる兼、少しは土産物も紹介できる。

(2階) 長崎県内の観光情報などをまとめたり、一般の人や学生の人たちからの良い情報を使えるように、事務的にサポートする。

(2階の一部) 防災向け物資(備蓄庫)の管理業務



防災向け物資の備蓄庫が中心地にある方が好ましいと、私は勝手に思っているのですが、普通は郊外の倉庫で良いと思われているみたいですが。



災害時には、県庁のバックアップができるように、体制を整える。(長崎防災第1センター)

長崎防災第2センターは、軽度負傷者向けの臨時診療所(救護所)みたいなものと考えています。

63 ■ 70代 男性 (壱岐市)

現庁舎の跡地活用についてのアイデア

1. 跡地活用に求めるもの

跡地の歴史的価値を残すことを基本とすること。

2. 具体的な跡地の活用策

(1) 県庁跡地は歴史の遺産として整備して残し、都市公園とする。

そのためには、近日中に出島と県庁舎側に江戸時代の橋(表門橋)が復元されると発表されているので、出島遺跡とタイアップした遺跡公園として観光地とするとともに、長崎市民のいこいの広場として活用することでできるように整備する必要がある。

(2) 警察本部庁舎の跡地は、小公園として残すことも考えられるが、あの地にふさわしい建物を建築して活用したいという民間があれば、民間の活力を活かすために売却することも検討してはと思う。

64 ■ 70代 (長崎市)

具体的な跡地の活用策

1. 超一等地故、役所から市民の手へ。

市街地交通の要として交通網の再編も併せ、人が集まる都市施設とする。
大波止~中央橋を洒落た公園的街路として活性化する。

2. 歴史文化博物館と連動、長崎の市街地全体を歴史博物館とし、その要の役割としての施設を置く。

近世から現代への長崎や日本の歴史に関わる場所がすべて一望できる地の利を活かし、歴史タワー建設ほか歴史・観光・教育の場となる施設を設ける。

「長崎氏の城下、岬の街建設・市中心部の町立て、南蛮貿易・鎖国期・開国・造船など近代産業などの港湾、原爆投下地ほか」、重要な歴史遺産を遠近に眺望し、子どもたちの学習の場としても利用できる施設。

また、個人・グループ・団体など、観光客が長崎に何を求めて来るか、にも対応できる施設。

~~~~~

### 65■ 20代 女性 (佐世保市)

県庁舎の跡地利用について

○跡地利用に求めること

キーワードは、「自然に～エコに配慮して～」

県庁の現在地は、長崎市中心部でかつ、出島などの歴史史跡も身近にある好立地であるため、更地にしてはもったいないと思います。何か箱物をという考えが生じてきそうですが、あえて何も作らないのも良いのではないのでしょうか。そこで、水辺の森公園のような緑の空間としての活用を提案します。

理由としては、長崎市程度の中核市（山口市、金沢市など）の中でも環境が良い町には、街の中心部に大きな公園（緑地）が見られます。これは、無駄ではなく、都市としてのゆとりではないかと常々考えておりました。

長崎市は不幸にも戦争により街の大部分が焼け落ちたという背景から、街から緑が失われてしまったように思います。今回の県庁跡地利用において、街に緑を復活させるいい機会ではないかと考えます。

ただ、緑地だけでは、物足りないのであれば、長崎奉行所西役所あとの石垣等を見せる形で残すなど史跡公園的な活用もあると思います。

最後に、既に立派な美術館、博物館は建設されておりますので、県庁跡地に同趣旨の箱物を建てるという発想だけは避けていただきたいと思います。県庁舎本体でも多額の税金は使われますので、重点的な予算活用を切にお願いいたします。

~~~~~

66■ 30代 女性 (佐世保市)

現庁舎の跡地は、出島に近く、1850年代には海軍伝習所があったことから、海軍伝習所の復元まではせずとも、歴史資料館を建設する。

2010年には大河ドラマ龍馬伝が放送される。坂本龍馬は長崎の海軍伝習所に参加していないようであるが、市内に点在する龍馬ゆかりの地ともリンクさせることも面白いのではないのでしょうか。

~~~~~

### 67■ 30代 男性 (南島原市)

維持管理等を考えると、財産（跡地）は安価で売却を前提として、大学の研究施設や、県の観光・物産販売の発信拠点施設など、県の基盤となる法人や企業、団体に活用していただきたいと考えます。

近隣には、個人飲食店などもありますし、地域活性化を図る上でも職員が在住し、多くの人が出入りすることが望ましいです。

~~~~~

68■ 30代 男性 (南島原市)

歴史公園及び観光客用駐車場として活用。

現県庁舎の近隣には出島という史跡があることから、現在復元されている出島と一体的に歴史を感じることでできる公園などにするとともに、大型バスを駐車できるスペースを完備したらどうでしょうか。

また、公園には防災時に活用できる釜戸ベンチなども設置し防災時の避難場所としても活用できればと思います。

~~~~~

### 69■ 30代 男性 (大村市)

出島周辺整備のための代替地

出島周辺の民有地を買い取り、県庁跡地等を代替地として提供。

出島の周りを海または水路にして、昔の姿に戻す。

~~~~~

70■ 30代 女性 (佐世保市)

昨年度、小学校6年生の児童が修学旅行の班別研修で、県庁を訪問させていただき、県庁の概要や仕事内容等をわかりやすく丁寧に教えていただきました。

そこで、中学生になった生徒に、アイデアを尋ねてみました。

私たちは佐世保市在住で、長崎市に住んだことがないので、どのような施設、空間等が必要なのかが、今一つわかりませんが、ご了承ください。

- 公園 ・ ・ ・ 地球環境を考えたエコパークのような施設
太陽光発電装置を設置するなど。
ウォーキングコース
サイクリングコース
- 科学館の新設
- 高齢者の人材活用を促進できるような施設
- 文化サークル施設

71■ 40代 男性 (南島原市)

現庁舎の跡地活用についてのアイデア

- ① 跡地活用に求めるもの
まずは、県の借金を考えるべきです。未来の子供たちの為少しでも債務を減らしていく為にあてるべきだと思います。
- ② 具体的な跡地の活用策
観光や宿泊施設等で活用できる企業に売却してみてもどうでしょうか？
ホテルやリゾート企業等定着型観光(歴史観光を主とした滞在型)を総合的にプロデュースできる企業に売却してはと思います。

72■ 30代 男性 (五島市)

理念：歴史的な遺構を保存しその活用と県民のシンボリックな役割を付与する。

目的：長崎が作られた象徴的な土地であるので、遺構を保存し、上部には歴史の継承と長崎のシンボルとしての役割を持つ施設を建設する。

具体的な構想：跡地を綿密に発掘し、中世末の教会堂時代、近世期の役所時代、近代の様々な遺構を重層的に保存する。教会堂を復元し、夜間はライトアップ、平和の鐘を鳴らし時を刻む。

周囲を公園化し、都市部の憩いの場にする。

長崎の歴史の発祥を象徴する教会堂を模した建物に、長崎観光交流施設を設け、この地の歴史を展示する博物館および県政史館を併設、ながさき巡礼の案内機関や県内各所の観光インフォメーション、公園にはイベント広場やさるく事務所、市内各商店街へのインフォメーション、人力車や電気自動車のターミナル等を設置する。

また、新県庁舎、長崎国際港、離島航路、新幹線駅等に路面電車またはエスカレータ

一、電動バスなどの頻度の高い交通路の確保する。

73■ 60代 男性 (長崎市)

「史跡博物館・公園」の建設

1. 史跡博物館
現在の県庁の場所は、かつて「岬の教会」、「長崎奉行所西役所」、「海軍伝習所」、「医学伝習所」などがあった。この歴史を伝える「史跡博物館」をメインとして建設する。
2. 県・市民公園
場所は県都の中心地～都心であり、県・市民、観光客のため“水”をモチーフとする公園として、人造池、運河(濠)を造る。
3. 駐車場
周辺は出島、新地、南・東山手など観光名所が広がり、浜の町商店街もひかえている。これからの観光客、買い物客などの為に低廉な駐車場を整備して欲しい。

74■ 40代 女性 (長崎市)

現庁舎の跡地活用について

○跡地活用に求めるもの

数年前に、長崎のウォーターフロントとして、常盤地区に水辺の森公園が整備されはじめた。まだ整備中で、全容が見えてない頃、当時、私が、南山手に居を構えていたこともあり、毎日の通勤の途中、その前を朝晩、行き来した。

このスペースが、どのように活用されていくのか、本当に期待したものであった。

私自身は、高速道路・長崎道の終点としても、あの長いトンネルの暗闇から抜け出た後に、眼前に広がる光と長崎港の海、聳える稲佐山、大波止地区に繋がる道路の広がり想像した。これは長崎を陸路で訪れる旅人たちにとっても、格好の旅への期待感と高揚の象徴になろうかと考えていた。

ところが、私の予想とは違い、AIG等の契約の中で、港の玄関口は巨大な資本ビルに塞がれ、全く風景を望めるかたちとはならなかった。

当然、長崎の経済状況や様々な取引のなか、素人が考えるような甘いものではないことは重々承知しているが、それにしても、あのビルに邪魔をされた風景は残念でならなかった。

その記憶と失望を踏まえた上でも、私個人は、県庁跡地は、市民や観光客が、眼前に出島の史跡を見下ろし、鶴の港を見下ろす場所として、あえて、いわゆる作り物の施設や様々な資料館等を配置せず、純然たる憩いの空間として公園としての整備のみを充実させることを希望する。

昨今、サービスにせよ、情報にせよ、過多の状況にありすぎるように思う。

何も無いところで、出島の風景や長崎港を見ていただいて、悠久の歴史の一部を各人のイマジネーションで膨らましてもらうこともよいのではないかと。

都市の規模や経済状況、地理的条件等の問題もあるが、一流の都市の条件としては、なにも配置しない贅沢＝街のクオリティーの高さという概念もある。

一般的には、長崎のような地理条件のものの都市計画としては、あるスペースを最大限、なにかを配置することによる有効活用に焦点は絞られるであろう。

だが、『なにもない』ことの活用の意味も深いと思う。都市災害の際も、なにもない都心のスペースの意義は大きい。

敢えて、都市の規模が違うという意見を怖がらずに言えば、ニューヨークのセントラルパークのように、東京やロンドンの大きな都心の公園のように市街地であることを忘れさせてくれるような、都心の無の空間を希望したい。

~~~~~

#### 75■ 20代 男性 (東京都)

サン・パウロ教会や長崎奉行所西役所、海軍伝習所、医学伝習所という、現県庁舎の地が巡ってきた歴史を踏まえ、特に海軍伝習所、医学伝習所という我が国の歴史を語る上で欠かせないものを長崎の文化保護やまちづくり、観光の為に活かされることを期待します。

~~~~~

76■ 男性 (大村市)

長崎奉行所を復元してはどうでしょうか？

隣の出島といっしょにライトアップすれば、稲佐山の展望台からとてもきれいに見えると思います。

~~~~~

#### 77■ 50代 男性 (長崎市)

具体的な跡地の活用策について

県庁跡地の活用については、長崎の古くからの要衝でもあり、出島復元構想との一体性が重要です。

長崎におけるすり鉢状の都市景観からしても高層の施設利用は、好ましくありません。むしろ、西奉行所や海軍伝習所といった史跡復元の構想をしていただきたい。

県庁跡地の利用については、長崎市役所移転の構想もあるように伺いますが、市役所の移転が必要であれば、県庁との合築や県庁移転敷地ないでの整備を行うことも可能であると思います。むしろ県庁整備の中で、県庁と一体に県警警察署を整備しなければならない必要性はなく、市役所移転後に市役所跡地を県警警察署として整備すれば、済むのではないのでしょうか？

本来、市役所跡地をどう利用すべきかも一緒に考えるべきだと思います。

~~~~~

78■ 40代 女性 (佐世保市)

案1. 可能な限り、自然の植生に近い植栽、植林を行い、自然に戻す。

案2. 長崎県内の「知の拠点」とする。

- ① 県内大学、県内企業のサテライトキャンパスとして県内学生の教育、社会人の再教育をする。
- ② 県内大学、県内企業共同の研究施設を建設し、産学官連携の拠点、知の拠点、情報の拠点とする。
- ③ 自治体職員、企業従業員の教育施設とする。
- ④ 県内市町村とTV会議システムで結び、①、②、③を各市町村から利用可能にする。

~~~~~

#### 79■ 40代 男性 (長崎市)

1案 セントラルパーク

- ・都市に緑を効果的に配置
- ・ジョギング、ウォーキングのトラックを設置
- ・跡地のセントラルパーク～出島ワープ～水辺の森公園を繋げて長崎市民の憩いの場を拡充
- ・駅前、大波止(夢彩都近辺)、浜の町の商業地区を繋げる役割を持たせる
- ・ショッピングの後に家族、友達と穏やかな時間を過ごせる場所ができれば、精神的な幸せを感じられると思う

2案 長崎県公文書館

- ・箱物は要りませんが
- ・なるべくコストをかけない利用がいいと思う
- ・長崎市役所は建て替えよりも、道州制で縮小する県庁舎内に移動する方が良いと思います

~~~~~

80■ 20代 男性 (諫早市)

現庁舎の跡地利用について

○具体的な跡地の活用策

美術館や博物館と言った文化施設へのコンバージョンを提案します。

築50年以上の建物は老朽化している反面、重要な街の財産だと考えます。それが今ま

で県庁として、長崎県の中心を担ってきた建物であればなおさらです。

別の場所に新しい箱物を作るのではなく、歴史的な建造物を大切に、中身を入れ替えることで再度命を吹き込むような計画を行っていただければと思います。

公共だけで事業を進める必要は無く、民間に計画・運営まで含めて提案を募り、お互いに手を合わせて新しい長崎への資源として活用する手立てを模索していただければと思います。

長崎は歴史的情緒が色濃く残る希有な街だと思います。広い視野で街作りを考えていただければ願っております。

~~~~~

### 81■ 60代 男性（長崎市）

具体的な跡地の活用策

日本の現代社会は、社会構造の変化によりコミュニケーションの弱体化、地域共同体への未参加者の増加などが顕著な現象として見受けられております。

また、高度経済成長期から長い年月を経て、電化製品等の恩恵を受けて、生活利便性が格段に向上する一方で、地球環境の悪化についての反省が取り上げられてきました。

このような社会構造の変化に伴い、日本人が古来から持ち合わせていたすばらしい相互扶助も薄らいできており、行政や各種団体の活動が難しくなってきました。

従って、量から質の豊かさへ変化することを望んでいる人々も多くなってきていることも事実であります。

そこで、現庁舎の跡地活用として「メモリアル・パーク（記念公園）」整備を提案いたします。

現庁舎及び周辺地域の由緒ある歴史を説明展示し、現代及び後世の人々がそれを理解し、憩いある場所として整備することによって、人々に安らぎを提案できることを期待いたします。

また、周辺地域を含む交流人口の拡大にも寄与するものと考えられます。

~~~~~

82■ 60代 男性（長崎市）

具体的な跡地の活用策

跡地の活用については、長崎市庁舎の移転が望ましいと思うが、長崎市がそれを希望しないのであれば、県民の広場として緑地公園にしたらどうか。長崎市の中心部は狭隘であるため、防災上もこのような施設は必要と思われる。

なお、当該地は歴史的にも由緒がある場所であり、また、長崎市の中心部に位置するため景観的なものを考えれば、民間に払い下げマンション等が建設されることも好ましくないとと思われる。

~~~~~

### 83■ 10代 女性（島原市）

具体的な跡地の活用策について

現庁舎は周囲に公園や中華街、商業地域があり、人が集まりやすい所にあります。

そこを活かして、県民が自由に使える施設にするのはどうだろうかと考えました。

使用許可を得たうえで、バザーや講演会、話し合いの場などとして利用する、公民館のような所です。

また、「元県庁」ということもあり、多くの人が場所を把握しているので、場所を伝えるのも容易にできると思います。

県庁舎と警察本部庁舎を合わせると2棟もあり、それぞれの場所で様々な行事を行えると思います。

そのために、まずは耐震強度を上げ、利用者の安全を十分に確保し、安心して楽しめるような場所にして欲しいと思います。

~~~~~

84■ 20代 男性（福岡県）

具体的な跡地の活用策について

長崎県民交流センターの設置

【目的】

県民が各種イベント・集会等を開くスペースの創設、カフェ等の憩いの場の提供。

【構成】

会議室、集会所、喫茶店、長崎県の歴史や文化に関する常設展示、長崎県立大学サテライトキャンパス

【概要】

会議室や集会所は民間の施設もあるが、利用料は決して安くはない。県の施設として割安な料金設定で貸し出すことで県民へ還元する。旧庁舎跡地は長崎市の中心部に近いことから、住民の集会だけでなく、企業の会議等にも利用が見込まれるのではないかと考える。

上記の会議室以外に、特定の目的がなくても県民が憩えるスペースを設置する。具体的には、喫茶店と無料開放のスペースである。特に無料開放スペースの内装は無機質なデザインではなく、長崎県の魅力（坂本龍馬の活躍に代表される幕末のイメージやキリスト教文化に由来した文化）をモチーフにしたデザインとし「居る」だけで楽しめる空間にしたい。

最後に、長崎県立大学サテライトキャンパスを設置し、特に夜間にスキルアップを図る社会人をターゲットにする。佐世保校のアカウンティングコースを活かした会計学、シーボルト校の情報メディア学科を活かしたITコースといった実学に絞ることで、社会人学生に適する。さらに、長崎県には法学を学ぶ大学環境が十分ではないので、法律学を体系的に学べるコースを作ると他大学との差異を明確化できるものとする。

（参考：石川県 県庁舎跡地等活用基本構想）

~~~~~

## 85 ■ 80代 男性 (島原市)

現庁舎の跡地利活用のポイントは、近世から近代へ激動する歴史の中で、長崎の地が果たした役割について思いを新たに、広く世間に知らしめる施設にこそ利用すべきと思う。

基本となるヒントはなにか。

例として観光資源の面から考えてみると、観光の基本は、多くの人々に来てもらい、感動を与え、リピートを期待するということであろう。

そのための方策として、景観を売り込み、グルメや特産品を紹介したりという努力をしてきた。

考えてみると、日本全国同じことをやっているわけだから、このやり方は、やがて限界があるように思われる。

では、新しい観光戦略は何か。

一言で言えば「物語性」を持たせるということではないか。

つまり、ストーリーで意味を持たせる。

この場合の意味とは価値と言い換えても良い。

博物館がある。

いろいろな掘り出し物を陳列してみせる。

それはそれで価値のあることだろうが、それに加えて「物語性」を考えると、単に置いておくだけで人は何回も足を運ぶものだろうか。

今、長崎市は出島の復元に力を入れている。

物語性から考えると出島だけの単発でなく、物語の関連の中の一齣と位置付けると、俄然面白くなるし、生き生きと我々の眼前に蘇るのである。

今、長崎にも関係のある「坂本竜馬」がブームである。

竜馬については、いろいろな人が語ったり書いたりしているが、私は司馬遼太郎の「竜馬がゆく」こそ圧巻と思うし、読んで実におもしろい。

この物語の中で、もちろん長崎が舞台となる場面が数多くでてくるが、この物語のあらすじを模型や人形、イラストなどを駆使して、見る人にわかり易く配置してみせるという施設ができないものか。

観客は、面白いと思うと同時に、我々の先人たちが命がけで守り育てた日本という国の歴史を学び、ものの考えやその行動力は教訓的でもある。

「竜馬がゆく」は小説だから、もちろんフィクションもあるが、ちゃんとした史実に基づいた歴史小説なのだ。

歴史学者を含め、識者は言う、日本人が来し方を振り返るとき、司馬遼太郎の作品こそが導きの糸になるだろう。

日本人は、司馬の書いた坂本竜馬が好きなんだ。

この中にヒントはないだろうか。

~~~~~

86 ■ 80代 男性 (長崎市)

県庁舎跡地の活用について

1. 現在の庁舎は新庁舎完成後、当然、取り壊されるであろうから、この跡地には、県立図書館や青少年センターを移設したらどうか。

(理由)

現在の立山所在図書館は老朽化がひどい。階段も急、更に、交通の便が悪い。

青少年センターは、交通会館の間借りと思うが、ここにセンターがあると知っている人がどれほどいるのか疑問である。

なお、県立図書館については、大村市が誘致運動を進めているとのことだが、長崎市の人口規模は大村市の5倍、市立図書館だけでは利用者の要求を満足させきれない。

是非、行政の中心地であった現県庁舎解体のときは、博物館(立山)、美術館(出島)と並ぶ3極の県文化施設を造り、浜の町〜大波止間における商店街活性化の一助になればと思う。

2. 当初への奉行所形式による建築物は、立山との対比により、当所へも同様な建築を考えられるかもしれないが、長崎市における文化施設の中心として奉行所様式を活かしつつも、文化施設としての機能をも活かすべく配慮していただければ幸いです。

3. 同所は、北は浦上、東は風頭から蛸茶屋、南は大浦、女神まで、更に西は港を隔てて稲佐山という、文字どおり、名実ともに市の中心である。故に、建物の中央には天守閣に模せるような展望施設を造れば、全市を望見できる観光スポットとなるであろう。また、博物館でも陳列できない長崎の歴史物を展示できる室の設置も必要と思う。

~~~~~

## 87 ■ 50代 男性 長崎市

県庁跡地には、地元商店街等の影響を考え、人の集まる施設を造る。

それには、県立図書館と、周辺には非常時の避難場所も兼ねた緑地公園が良いのではないかと。

- 今の県立図書館は、狭く、駐車場も小さい。閲覧室が3階にあり、不便。市立図書館が出来てからは、利用者が激減。建物も古いので、建て替えて、利用者数アップを図る。市立図書館よりも立派なものを造る。
- 周辺には、ヒートアイランド対策、温暖化対策として、緑がある公園を整備する。ここには、防災ヘリコプターも離発着できるスペースも確保(無理かな～)。

~~~~~

88 ■ 60代 男性 (長崎市)

馬町から桜町を抜け、江戸町県庁舎までの道路は、龍の背のように伸び、岬の崎から港の方向に飛び立とうと構えているとも感じられます。

この位置は、以前は、湾を囲む両半島の人々の動きを知ると同時に、外海に通じる水路の始点・終点のように船の出入りを観ていた場所であり、日常的（或いは定期的）に、その様子を伝えられていたのだと想像します。

教会は、布教を許された街にあって、その教えを海外と国内を結ぶ場としてあり。

長崎奉行所は立山との連携によって、海外事情を把握し、情報分析伝達の役を兼ねつつ大陸・欧州を見ていたと言えます。

明治以降は、海城・通信・近代技術知識と結ばれた行政の中心として、太平洋戦争後は、平和産業を推進する場所として、国県民、地域住民の意識を集約・発信してきた位置です。

これらの、常に海外に向けられていた意識を持った場であり、そのことを通して県民に利益をもたらそうとする姿勢は、継続する必要があると考えます。

現在の建物のうち、本庁舎、本体部分等、内部を、県産材、木材を中心に、各階、各部屋を庁舎本体と密着させた（防虫、防腐処理を施した）柱桁、根太等、構造材を箱型に組み込む形で改修、耐震性を高め、県立図書館等と連携した「科学・防災総合会（議）所」と「道州制」、「温暖化対策」を考慮しつつ、「公益法人センター」を設置することの提案。

(1) 「公益法人センター」及び(2) 「科学・防災総合会（議）所」（何れも仮名）の設置
 国の構想にある2017年「道州制」が施行された場合、地方分権の基本的姿勢として、権限委譲に見合う財源の分配がされますが、それに連動して、権利と義務の平衡性から、応分の負債の引き受けが予想されます。

また、道州職員（都道府県職員）の立場（道州地方機関業務等）のあり方も、重要な課題として議論の場に出されるものと思われます。

これらを踏まえつつ、以下を提案します。

(1) 「公益法人センター」の設置（意義と付帯施設の設置）

「公益法人」の主な組織は、長崎県職員録に搭載されている他、同録最終ページの「県庁内配置表」の各課（室）関連で相当数存在していると考えられます。

行政と民間企業、地域法人を結び、双方の技術・知識の交流の接点として、又、民間の要望・施策の浸透を図る場として役割を分担しています。

今後も、この機能を継続、発展、充実させ、さらに、温暖化と、そこから派生する諸問題に対応する道州制導入に合わせて、公益法人が、横断的に、かつ、より国、県民に密着する状況を創設する場として、現県庁本庁舎等集合施設に、前記「配置表」等参考に集合させる「センター」を設ける。

この合同庁舎内に、公有財産（動産、不動産、知的財産等）流通期間を設ける。

当初、庁舎内の耐震強度を加えた執務室等改装（一各階各室の天井、壁、床、空調、配線等を全て取り除き、新しい部屋を基本的にヒノキ、スギの構造材（集合材を含む）と板材（間柱等を含む）を使用し改修します。

仮に一部屋を3.6m×7.2mとすると、12cm×12cm又は10.5cm×10.5cmの柱を中心に箱型の部屋を本庁舎構造に密着させる構造にすると、木材の自重は、柱材で気乾時0.4トン～0.3トン（間隔1.8mに1本、スギ又はヒノキ、比重0.4と仮定）得られる圧縮強度は最大約650トンとなり、間仕切りを共有する形にすると、この半分が上下方向の強度の加算分となります。

約26㎡の部屋から、約500トン～約330トンの強度を得、天井の桁、床の根太と、その板や壁材に斜交と、やや厚い板を使用して、各方向への強度を増して安定性を高めます。さらに、室内の間仕切りに金属等を利用し、桁等天井床構造に密着させた箱型ルールと、その間に入れる柱、壁、棚材で適時面積配分に伴う強度変化を補い合うようにし、同時に各階間の上下方向の構造材位置を同一になるように配置して、想定単位部屋で約3㎡前後の材料の使用量を得ます。）によって、市内各所に分散する関係機関を集合させます。

このことにより、民間と行政を結びつける一定数の公益法人の有する情報を断面化し、さらに電子情報、データ化し、行政機関と、別案「科学・防災総合会（議）所」との（道州対応の）電子情報（この場合主に、各課（室）、地方機関の統計データ）と、これを原資とする業務・事業の新しい流れ（細分され、複雑化した流れを分離、融合、整理する流れ）を創造します。

「林業行政」で例えるなら、長崎県の木材業・製材業登録条例の一部改正（温暖化対策、公有・公益法人所有搬出材の小口入札参加者に対する登録の免除・事前届出（揭示時・インターネット配信時申込み等）に条例を変える）を、当該登録業者の理解（同制度への同業者の参加の自由、小口入札材の一般入札の「不落」物品の小分け入札や、B材、C材等の小分け（1㎡や1トン単位等）などにより、同業者への営業に影響の少ない方法を採用する。）を得る形で実施する。

このことで、県産材の流通を県民の身近なものにし、間伐材や規格外の利用拡大や、自家用製材、小口製材業の活性化への道が開かれると考えられます。

これらは、林業に限らず、行政各部署や各公益法人内にも潜在しているものと思われます。

これらの物流面での取引の場を「議場」等を定例会場やインターネット発信場等として活用します。

因みに、上記木材を使用した耐震化を行うとすると、1万平方メートルであれば、26平方メートルの約380倍で1,140立方メートルの木材が利用され、立木に換算すると（利用率50パーセントなら）約2,280立方メートル、ヒノキ40年生で、7～8ヘクタールの再造林地（排出権取引対象可能地）を生むことにもなります。

☆ 温暖化対策として「九州の穀倉地帯を守る取り組み」を ☆
 海面上昇から、有明海沿岸の水田等耕地を守るために
 ～長崎～熊本～鹿児島を結ぶ橋に替えて

現在、潮害等災害の影響を受けない満水時潮位を確保とする開閉式堤防の建設を検討する会など立ち上げられてはどうか。

島原～天草～阿久根間3箇所、現満水時以上の海面上昇を止め、上げ引き潮にはある程度の深度まで門を開く構造の堤防が有効かと考えます。

造成を要する海岸線への堤防建築との費用と効果との比較になりますが、早めの対応で項目毎の危機回避が必要ではないでしょうか。

89 ■ 50代 男性 (諫早市)

具体的な跡地の活用について

私、申し上げまして今まで県庁舎跡地活用策など、考えてみた事はありませんでした。ご近所から考えてみて欲しいと言われ、少しだけ短期間、考えてみたところで、つたな

い考えですが述べさせていただきます。

跡地活用に関する参考資料等に見られるように、私たちの住む長崎県には、日本を代表する史跡があり、その復元は是非、跡地において行って欲しいと思います。

それと平行して駐車スペース（地下）を設けて欲しいと思います。

新幹線の乗り入れ、ETC割引、ひいては高速道路の無料化など言われ始めた事でもあり、県内はもとより全国からの観光客が来崎する際の駐車スペースが十分確保されている事が、何よりも望ましいことではないでしょうか？

それに対する方策等は、県の専門部、学識者による県民が絶賛するような跡地活用の実現を一県民として、大いに期待しております。

90■ 30代 男性（雲仙市）

(1) 跡地活用に求めるもの（あるべき姿などの基本理念）

- ・ 箱物行政からの脱却を図る。

(2) 具体的な跡地の活用策

- ・ 現庁舎周辺に充実した施設があるにもかかわらず、駐車スペースが不足していたり、他地域の駐車料金よりもかなり割高であったりするために、施設の十分な利用がなされていない（または大半の県民の方々には活用しにくい）のではないかと思います。あまり予算をかけず、しかも周辺施設のさらなる活性化を図るために、県営の駐車スペースを設けていただきたい。

91■ 30代 女性（長崎市）

こんにちは。

遅ればせながら県庁跡地の活用法についての案も出しておきますね。

- 跡地には木と水のマイナスイオンが沢山降り注ぐ県民の憩いの場があると嬉しいです。出島ワープのように数年たつと時代遅れなイメージになってしまうものではなく、時間が経過しても古臭いイメージにならず、むしろ味わいが増すようなそんな場所であって欲しいです。理想は東京都庭園美術館です。
<http://www.teien-art-museum.ne.jp/garden/index.html>
- 長崎にはお茶ができる場所が少ないので、是非カフェを作ってください。いかにも今どきのものではなく、渋いカフェが希望です。
（文明堂や福沙屋のカフェとか）
カフェというより喫茶店とかサロンといった言葉が似合いそうな空間が良いと思い

ます。

家具は長崎県で活躍されている木作家さんが作られたものを置いたり、、、木作家は早田聡さんがおすすめです。

建物に県庁舎の廃材を利用するのもいいと思います。

今のところはこれぐらいです。

また思いついたら投稿しますね。

92■ 男性（福岡県）

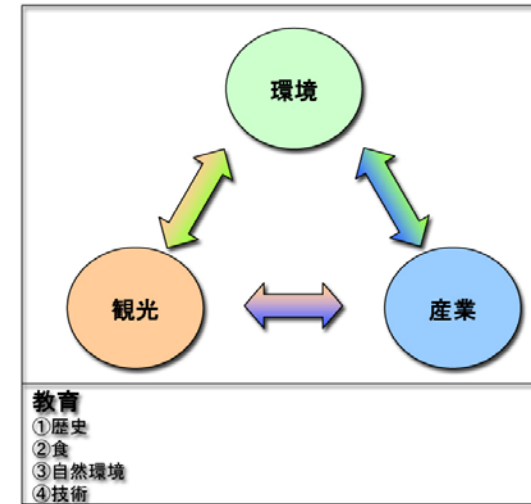
現庁舎の跡地活用についてのアイデア

<テーマ>「具体的な跡地の活用策」

活用に際し、新幹線の開業予定や昨今の社会事情を踏まえた上で、長崎県が全国の中でも注目される存在になり、且つ県民にも有効に利用される活用策を検討したい。

立地：市内中心部と交通網の整っている箇所に位置しており、県民の利用だけでなく企業、観光客の利用に際しても利便性のあるものと考えられる。

テーマ：「環境」「教育」「観光」「産業」



教育を土台として、各テーマは成り立っており、そのテーマの融合と交流の拠点となる施設、仕組みの創設の場となるような施設跡地利用策をしたい。

長崎の環境力を育成・発信する総合施設としての活用

「地域の環境企業との連携により、地域の環境産業と環境学習等を通じた環境人材の育成の中心拠点」となる施設を建築

- 県警本部跡地：環境ビジネスのインキュベーション施設（例）
 - ・ 現存の建築物、建築資材を最大限に利用した企業、NGO、NPO団体が使用することのできるパブリックスペース創設（会員制をとり、低額による会議室やホール、事務スペースの貸し出し・利用）・ 県警跡地に入所した企業・団体について、HV車・EV車をカーシェアリングする。
 - ・ その他、会員の希望者にもHV車・EV車のレンタル、リースを行う
 - ・ EV車充電拠点とし、環境に配慮した建築物にする
- 県庁舎跡地：環境ビジネス、人材育成の拠点（例）（施設の中身）
 - ・ 屋上緑化や中庭の公園転用（ビオトープなど）により都市部の緑を創出する。
イメージ的には、「かごしま環境未来館」のような施設で環境教育の場、県民の憩いの場を提供
 - ・ 九電長崎支店・三菱重工長崎造船所などの県内の主要で環境活動に活発な企業による環境技術、研究内容の展示やエコ商品の販売を行う。（企業CSRの場）
 - ・ 太陽発電やメタン発酵施設などのクリーンエネルギー施設を併設し、施設内の使用エネルギーをまかなうとともに、施設の視察ができるようにして環境教育材料を提供する。
 - ・ グリーンツーリズムの総合窓口の設置
⇒ ツアー等の申し込み受付や情報発信拠点
⇒ 各種観光地の自然環境（動植物）や環境に配慮した観光への取組事例などの情報提供
⇒ グリーンツーリズムの運営、創出に関する各種支援制度やコンサルティング等の情報発信
 - ・ 講義スペースや簡単な実験スペースをはじめとした小学生などへの学外授業用のスペースの創出
⇒ NPO・NGO、協賛・協力企業による講義、セミナーなどの開催
 - ・ 地産地消の推進をテーマにした長崎の歴史と特産物の紹介などの“食”のコーナー
⇒ 県産品を用いた郷土料理や創作料理を提供するレストラン
⇒ 郷土料理の料理教室の開催
⇒ 食育に関する講演会、サークル等の開催

~~~~~

## 93 ■ 20代 女性（西海市）

具体的な跡地活用策

現県庁の跡地は、長崎県民の交流の場として活用してはどうでしょうか。

幅広い年齢層や男女を問わず、多くの人が集まることができる場所となるよう、ボランティアを通じて県民が交流できる施設です。

現庁舎の跡地は、周囲が大波止や水辺の森公園、新地中華街などに囲まれているという立地条件であるため、利用しやすい環境を活かすことができるのではないかと思います。

長崎市が中心となって、NPOやボランティアを通じた市民活動の情報・交流の拠点として機能する施設になることが望ましいです。

具体的には、市民活動を支援するための事業、長崎市やその周辺の地域の住民同士の交流を活発にするためのイベント等の企画や、セミナーの開催などを行い、ボランティア活動に関する相談を受け付け、市民が興味を持ち、積極的に活動できる場を提供するという内容です。

福岡市や長野市にも、市が中心となって、そのような施設運営に取り組んでいる事例があり、市民に幅広く活用されているようです。

また、ボランティアを通じた市民活動に興味があれば、誰でも気軽に利用できる施設であるということからも、身近な場所として利用し易いのではないかと思います。

ボランティア活動を通じた交流の場で、新たな趣味や生き甲斐を発見し、小さな子どもから高齢者まで生き生きと活動できることに加え、県民の参画と協働による、自立した地域づくりを推進することも可能ではないでしょうか。

長崎県の地域の活性化につながる取り組みにもつながると考えます。

行政が施設を提供し、市民が運営を受け持つというパートナーシップにより成立する施設であることから、行政と市民の距離が近くなり、地域をより良くする行政サービスの提供も可能となると思います。

~~~~~


94 ■ 20代 男性 (佐世保市)

老若男女が集える大きいセンターのようなものかどうかと考えました。

まず、不況のこの時代、県などが公共事業等でお金を使っていく必要があります。

批判されようが、ただ広場に作るよりも、箱物を造るべきかと考えました。

近年、人と人とのつながりが希薄になったと言われています。

そこで、児童センターの進化バージョンのような、県民なら使えるような施設を造ればいかがと考えました。

アイデア募集期間後に「県へのご意見、ご提案」として寄せられた提案

※この提案は、アイデア募集期間後に寄せられたものであるため、「アイデア募集結果」の件数等には反映していません。

■県庁舎改築におけるアイデアについて

平成21年12月7日(月) 20代 (長崎市)

県庁舎改築におけるアイデアについてです。すでに応募締め切りを過ぎましたが意見を言わせていただきます。

私は長崎が大好きで、特にその深く洗練され日本史においても京都や東京と並んで重要な文化と歴史こそが長崎の魅力であると思っています。また長崎を訪れる多くの観光客・修学旅行生も多くがそう感じていることと信じています。

これからの長崎は大陸に最も近い地理と日本一長い海岸を活かして韓国の釜山などのように沿岸部の港湾・工業地帯の整備を進めるとともに、観光客・修学旅行生を初めに今まで培ってきた優れた文化と歴史を世界中に発信する文化発信都市であることがふさわしいと思います。したがって新県庁舎は「これからの長崎を今まで以上に県がしっかりリードしていく決意」と「長崎のもつ役割の自覚」を明確に表した意匠であるべきだと思います。

1911年落成の旧長崎県庁舎の荘厳でレトロな意匠は異国情緒豊かな長崎の町並みや歴史に調和するものであり当時の長崎の繁栄をも顕著に表しています。この旧県庁舎は原爆により無惨に破壊されましたが私はここに着目します。多くの命だけでなく優れた建築物や文化を一瞬のうちに破壊した原爆に旧県庁舎は屈しましたが、新県庁舎に旧県庁舎の意匠を完全に再現するか或いはその一部を跡地に復元し記念碑や説明パネルとともに残すことで、密約や核兵器開発が絶えなかった20世紀と決別し「長崎は原爆に一度は屈したが二度と屈することはなくこのようにかつての繁栄を取り戻し更なる進歩を遂げていくのだ」という意思表示をすることになります。京都タワーの意匠などもそうですが徒に他県・他国の有名なデザイナーに依頼してもその都市の歴史的意義を十分に理解しないまま設計されると後味や評判の悪いものになります。

以上のように、新県庁舎の意匠は決して流行や未来を意識した先走ったものではなく、バリアフリーや長崎の夜景を楽しむための高層化をしつつも旧県庁舎の意匠を後世に残すようなものにしてほしいと存じます。

活用分類	No.	活用対象地					利活用方法							
		所在地	面積 (千㎡)	従前土地利用	従前所有者	事業名	土地利用転換目的	活用方法	処分方式	活用条件	活用主体	施設内容	開始時期	
教育文化施設	1	兵庫県神戸市	5.9	市バス車庫	神戸市	布引車庫跡地土地利用事業者募集	民間活力を活用し、新神戸駅の顔に相応しい賑わいを創出	売却	総合評価方式	市民に開かれた賑わい施設の創造	総合商事㈱	芸術センター、都市型スーパー、フィットネス、オフィスなど	H20	
	2	山形県山形市	16.0	県庁舎	山形県	県庁舎移転建替		県保有			山形県	山形県郷土館(旧庁舎の土地建物を利用)	H7	
	3	岡山県岡山市	6.8	県庁舎	岡山県	県庁舎移転建替		県所有			岡山県	岡山県天神山文化プラザ	S37	
	4	鹿児島県鹿児島市	20.0	県庁舎	鹿児島県	県庁舎移転建替	生涯学習施設、国際交流施設等からなる複合的な県民交流センターとする	県所有			鹿児島県	かごしま県民交流センター	H15	
商業施設	5	大阪府八尾市	17.9	旧国鉄跡地	八尾市	竜華地区商業複合用地活用事業	区画整理に併せて、複合機能を備えた新都市核として整備	売却	二段階競争	商業施設、歩行者専用立体通路整備等	住友不動産㈱グループ	商業施設、子育て支援施設、集合住宅等	H22以降	
	6	宮崎県宮崎市	10.6	公営駐車場	宮崎県宮崎市	宮崎駅西口拠点施設整備事業	民間活力の導入により、にぎわいのあるまちを形成	定期借地	民間提案活用	商業・業務地区としての土地利用	宮崎商工会議所グループ	商業施設、業務施設、駐車場	H23	
	7	広島県呉市	14.5	旧国鉄跡地	呉市	宝町埋立地内私有地	商業ビルの導入による地域ポテンシャルの向上を図る	売却	企画競争方式	商業アミューズメント施設	株式会社イズミ	商業施設	H16	
	8	北海道札幌市	1.1	卸売市場、駐車場等	札幌市	北12西23地区	高度利用と都市機能の更新、市街地環境の改善	貸付	随意契約	公共公益施設の導入	㈱札幌振興公社	銀行、店舗、オフィス、駐車場	H12	
	(公共施設複合)	9	静岡県藤枝市	7.7	病院	藤枝市	藤枝駅周辺整備事業用地	民間活力と土地の高度利用により官民複合施設を整備	定期借地	総合評価方式	民間施設(集客施設等)公共施設(図書館)	大和リース㈱	市立図書館、商業施設、シネコン、駐車場等	H21
	(公共施設複合)	10	東京都江戸川区	1.3	低・未利用地	江戸川区	篠崎駅西口公益複合施設プロジェクト事業	駅前商業の賑わい創出、定住人口の確保	売却	総合評価方式	商業・住宅、公益の複合施設整備	篠崎駅西口公益複合施設㈱	公共施設(図書館等)、駐輪場、共同住宅、商業施設	H20
交通施設	11	熊本県熊本市	2.2	県庁舎	熊本県	県庁舎移転建替		売却			㈱熊本交通センター	熊本交通センター(バスターミナル)	S44	
医療福祉施設	12	北海道札幌市	3.1	教育委員庁舎	札幌市	旧教育委員庁舎跡地公募提案型売却	都市づくりへの方向性に合致し、周辺環境と調和した跡地利用	売却	二段階競争	広く市民に開かれ、利便性向上に寄与する機能の導入	㈱ライフコード等	診療施設、調剤薬局、託児所、コンビニ、貴賓マンション等	H21	
	13	群馬県前橋市	2.4	会館	前橋市	旧勢多会館跡地整備に関する提案競技	民間活力の活用による中心市街地の賑わい再生	売却	総合評価方式	中心市街地全体への波及効果が期待できる施設整備	ちよだ㈱	有料老人ホーム、デイサービスセンター、グループハウス等	H20	
ホテル・コンベンション施設	14	広島県呉市	3.9	未利用地	呉市	呉駅南地区4街区開発事業	民間活力を活用し、賑わいのある町の形成を図る	売却	総合評価方式	交流プラザ、商業・業務施設、住宅施設	㈱穴吹工務店大成建設㈱	都市型ホテル、分譲住宅、オープンスペース、物販飲食店舗等	H21	
	15	奈良県奈良市	2.5	未利用地	奈良市	JR奈良駅西側未利用地活用事業計画提案競技	未利用地にホテルを誘致し、観光客の誘致活動を推進	売却	二段階競争	客室数概ね200室以上のホテルの導入	㈱ゼファー	ホテル、レストラン、会議室、ビジネスセンター、店舗等	H22	
	16	福岡県福岡市	13.6	県庁舎	福岡県	県庁舎移転建替	公民複合施設として「国際・文化・情報の交流拠点施設」を建設	県所有			福岡県	アクロス福岡(公民複合施設)	H7	
庁舎	17	東京都立川市	11.0	米軍基地	国有地	立川基地跡地関連地区	新市庁舎の建設	売却	随意契約	市庁舎	立川市	立川市役所庁舎	H22	
	18	茨城県水戸市	3.2	県庁舎	茨城県	県庁舎移転建替	公園的要素を取り入れながら、ホールを中核とした多機能型文化活動施設を整備	県所有			新潟県	三の丸庁舎(県の機関、関係団体が入居)	H11	
	19	新潟県新潟市	13.0	県庁舎	新潟県	県庁舎移転建替		売却			新潟市	新潟市役所庁舎	H1	
	20	岐阜県岐阜市	10.0	県庁舎	岐阜県	県庁舎移転建替		県所有			岐阜県	総合庁舎(地方機関・外郭団体が入居)	S41	
オフィス	21	北海道札幌市	5.9	庁舎	財務省	旧札幌第1合同庁舎跡地	大規模業務機能導入による都市機能の再生	売却	一般競争入札		日本生命保険相互会社	業務エリア、サテライトキャンパス、クリニック、レストラン、コンビニ	H18	
住宅	22	群馬県前橋市	1.7	消防本部銀行	前橋市	旧消防庁舎跡地整備に関する提案競技	民間活力を活かした中心市街地の賑わい再生	売却	総合評価方式		㈱穴吹工務店 ㈱大林組	医療モール併設型分譲住宅	H21	
	23	埼玉県春日部市	14.8	学校	春日部市	旧谷中小学校跡地活用事業募集提案競技	廃校の跡地利用による街の再生	売却	総合評価方式	周辺住宅地と調和した適切な土地利用など	ボラスグループ	戸建分譲住宅	H17	
オープンスペース	24	秋田県秋田市		県庁舎	秋田県	県庁舎移転建替		貸付			秋田市	市へ貸付け、市のイベント等で活用	S34	
	25	石川県金沢市	30.2	県庁舎	石川県	県庁舎移転建替	周辺施設と一体となって良好な環境形成を目指すとともに、県民の多種多様な文化の創造へ向けた機会と場を提供	県所有			石川県	オープンスペース、歴史的外観を残した教育文化施設	H22	
	26	三重県津市	6.0	県庁舎	三重県	県庁舎移転建替		県所有			三重県	公園	S47	

教育文化施設 代表事例 (No.2 山形県庁舎跡地)

教育文化施設 代表事例 (No.4 鹿児島県庁舎跡地)

所在地	山形県山形市旅籠町3丁目4番51号	敷地面積	約16,000㎡
地図			旧県庁舎
従前土地利用	県庁舎		旧県会議事堂
従前所有者	山形県		
土地利用方針			
活用方法	県保有		
処分方式	—		
活用主体	山形県		
施設内容	山形県郷土館～文翔館 ※旧庁舎及び旧県会議事堂の土地、建物を利用		
利用開始時期	平成7年		

所在地	鹿児島県鹿児島市山下町14-50	敷地面積	約20,000㎡
地図			外観
従前土地利用	県庁舎		
従前所有者	鹿児島県		
土地利用方針	県庁舎移転立替		
活用方法	県保有		
処分方式	—		
活用主体	鹿児島県		
施設内容	かごしま県民交流センター ・建設規模 SRC造 地上6階 地下2階 延べ床面積 44,727㎡ 駐車場 550台 (普通車530台、バス20台) ・工事期間 平成12～14年度 ・事業費 225億円 ・開館日 平成15年4月22日		
利用開始時期	平成15年4月		

交通施設 代表事例 (No.11 熊本県県庁舎跡地)

ホテル・コンベンション施設 代表事例 (No.16 福岡県県庁舎跡地)

所在地	熊本市桜町3-10	敷地面積	約22,000㎡
地図			外観
従前土地利用	県庁舎		
従前所有者	熊本県		
土地利用方針	県庁舎移転建替		
活用方法	売却		
処分方式	総合評価方式		
活用主体	㈱熊本交通センター		
施設内容	バスセンター ホテル（熊本交通センターホテル） 商業施設（センタープラザ等）		
利用開始時期	昭和44年3月		

所在地	福岡市中央区天神1丁目1番1号	敷地面積	13,648㎡
地図			
	西鉄福岡天神駅から徒歩10分 地下鉄天神駅から徒歩3分	外観	
従前土地利用	県庁舎		
従前所有者	福岡県		
土地利用方針	公民複合施設として「国際・文化・情報の交流拠点施設」を建設		
活用方法	県有地		
処分方式	—		
活用主体	福岡県		福岡シンフォニーホール
施設内容	福岡県国際文化情報センター（アクロス福岡） ・福岡シンフォニーホール（1,867席） ・国際会議場（最大300席） ・イベントホール（最大900席） ・円形ホール（最大188席） ・大会議室／会議室（最大250席／69席） ・文化観光情報ひろば ・オフィス など		国際会議場
			イベントホール
利用開始時期	平成7年4月		

オープンスペース 代表事例 (No.25 石川県県庁舎跡地)

所在地	石川県金沢市広坂2丁目		敷地面積	30,176.30㎡
地図			 <p>旧石川県庁正面</p> 	
従前土地利用	県庁舎			
従前所有者	石川県			
土地利用方針	県庁舎移転建替			
活用方法	県保有			
処分方式	—			
活用主体	石川県		 <p>整備イメージ</p>	
施設内容	<p>○旧庁舎の歴史的な外観を残した施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民ギャラリー&ミュージアム ・ 県民交流プラザ、石の広場 ・ レストラン、カフェ、会議スペース <p>○緑地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芝生を主体とする伸びやかな空間 ・ せせらぎの配置 ・ 季節感を感じさせる花などの演出 		 <p>県民交流プラザ(イメージ)</p>  <p>石の広場(イメージ)</p>	
利用開始時期	平成22年春 (予定)			

「象徴的な場所」の世界における事例

番号	項目	国・地域	趣旨	頁
1	横浜開港資料館～開港広場	神奈川県	安政の五カ国条約にもとづく開港場（1859年）	132
2	中之島公園	大阪府	大阪市で初めてつくられた公園（明治24年）	132
3	広島平和記念公園	広島県	被爆・平和	133
4	福岡県県庁跡地～天神中央公園	福岡県	跡地活用～オフィス街（天神地区）のオアシス	133
5	トラファルガー広場	イギリス	トラファルガーの海戦を記念して造られた公園	134
6	カンピドリオ広場	イタリア	ミケランジェロが設計した広場	134
7	スペイン広場		映画のロケ地として世界的に有名	135
8	トレヴィの泉		映画のロケ地として世界的に有名	135
9	シエーナ～カンポ広場		広場を中心に市街地が形成されている	136
10	サン・マルコ大聖堂		ベネチアで最も人が集まる場所と言われている	136
11	サン・ピエトロ広場	バチカン	カトリックの総本山に広がる広場	137
12	ストックホルム 市庁舎広場	スウェーデン	ノーベル賞授賞式が行われる建物に囲まれている	137
13	シテ島	フランス	フランス発祥の地とされている	138
14	コンコルド広場		革命広場と呼ばれていた	138
15	パリの凱旋門～シャルル・ド・ゴール広場		凱旋門を中心としてシャンゼリゼ通りなど放射状の通りが造られている	139
16	ポンピドゥーセンター広場		ポンピドゥー国立美術文化センターに隣接した広場	139
17	グラン＝プラス	ベルギー	世界で最も美しい広場の一つと評されている	140
18	赤の広場	ロシア	重要な国家行事が行われている	140
19	上記以外の象徴的な場所			141～143
20	象徴的な集客施設等			144～148

■横浜開港資料館 ～開港広場



開港広場

1854（安政元）年、2度目に来日したペリーと幕府役人との間で、横浜村において日米和親条約が結ばれ開国した5年後の1859（安政6）年、安政の五カ国条約にもとづいて横浜は開港場となり、横浜は、生糸を中心とする貿易都市として、ついで重化学工業都市として急速に発展し、ついには首都東京に次ぐ大都市に成長した。

横浜開港資料館は、開港百年を記念して編さんされた『横浜市史』の収集資料を基礎に、1981（昭和56）年、和親条約締結の場において開館した。

19世紀半ばから関東大震災にいたる時期を中心に資料を充実、現在、公私の文書記録、新聞雑誌、写真や浮世絵など25万点を超える資料を収集しており、これらの資料は、常設展や企画展で紹介するとともに、閲覧室で公開している。



開港資料館（旧館）

※横浜市開港記念会館

神奈川県横浜市中区の関内地区にある歴史的建造物。公会堂の用途で建設され、現在も横浜市中区の公会堂として活用されている。大阪市中之島公会堂などとともに大正期の公会堂建築のなかでは有名な建築物のひとつである。設計原案ならびに基本構造設計は福田重義と山田七五郎がおこなった。

建築当初の建築様式は、辰野式フリークラシックとよばれる様式で、震災後、これに構造補強が施され、いわゆる復興デザインが加えられた。



開港資料館（新館）



横浜市開港記念会館

■中之島公園



明治24年（1891年）、大阪市で初めて誕生した公園。

堂島川と土佐堀川にはさまれた延長約1.5km、面積10.6haの緑あふれる都心のオアシスで、川の流れと中央公会堂、府立中之島図書館などの重厚な建築物が緑に映え、美しい景観を見せてる。

また、淀屋橋から肥後橋まで延長400mの中之島緑道は、ケヤキ、ツバキ、ツツジなどの緑とともに、表情豊かな10体の彫刻が設置され、心やすらぐ遊歩道となっている。



■広島平和記念公園



現在の平和記念公園一帯（中島地区）は、江戸時代から陸海の交通の要衝として栄えていた。また、明治になると、市庁舎、県庁舎のほか、広島の物流の拠点となるなど、政治・行政・商業の中心となった。

被爆時のこの地区7町の住民は、合計で6,500人と推定されている。

1945（昭和20）年8月6日、人類史上初めて投下された原子爆弾は、この地区の頭上で炸裂した。地区の住民はもとより、当時この付近で建物疎開作業に従事していた多くの国民義勇隊や動員学徒が非業の死を遂げ、街並みも一瞬のうちに消え去った。

1949（昭和24）年8月6日の「広島平和記念都市建設法」の制定にともない、この地区一帯は平和記念施設として整備されることとなり、現在の平和記念公園に生まれかわった。

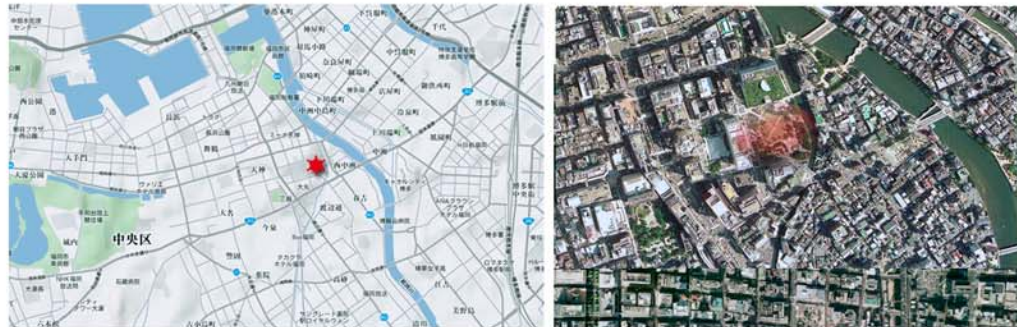
公園面積は約122,000平方メートル（約37,000坪）。

設計は、丹下健三東大助教授（当時）ほか3名の共同作品で、設計競技による145点の中から入選したもの。

公園の南端には、広島平和記念資料館（東館・本館）と並んで、広島国際会議場がある。



■福岡県県庁跡地～天神中央公園



天神中央公園は、福岡県福岡市中央区天神にある県営公園である。

アクロス福岡より撮影福岡市を代表する繁華街である天神の東端にあって、福岡市役所の東側、アクロス福岡の南側に位置し、東側は那珂川支流の薬院新川を越えて中央区西中洲まで広がり、那珂川に面している。

総面積約31,000㎡の平坦な公園で、中央は広大な芝生の広場となっており、その周囲には木々が植えられている。

北に隣接するアクロス福岡の南面が階段状に植栽が施されており、公園と一体化してランドスケープを形づくっている。この公園は天神地区のオフィスなどで働く人々のオアシスにもなっている。

公園の南側には済生会福岡総合病院がある。

薬院新川を挟んだ西中洲側には福岡県公会堂貴賓館があり、福博であい橋で那珂川対岸の中洲と繋がる。

1981年（昭和56年）11月に移転した旧福岡県庁の跡地を整備し、1989年（平成元年）3月に完成した。都心部の空間を有効利用するため公園の地下には駐車場が設けられている。



■トラファルガー広場 (Trafalgar Square)



ロンドンのウェストミンスターに存在する広場。

1805年のトラファルガーの海戦を記念して造られた。

当初はウィリアム4世広場という名前だったが、建築家のGeorge Ledwell Taylorの提案によってトラファルガー広場となった。

この広場は、エドワード1世の時代には王家の厩であった。

1820年代、ジョージ4世が建築家のジョン・ナッシュにこの地域の再開発を依頼。現在の形になったのは1845年である。

また、この広場は政治演説をする人が多いことでも有名で、週末には何らかの集会が行われていることが多い。

■カンピドリオ広場 (Campidoglio)



ローマの七丘の一つである。カピトリノ (Capitolino) ともいい、古代ローマ時代にはラテン語でカピトリヌス (Capitolinus) と言われた。

この丘は、ローマの七丘でも最も高い丘で、ローマ神の最高神であったユピテルやユノーの神殿 (ユピテル・オプティムス・マキシムス、ユノー、ミネルヴァ神殿) があり、ローマの中心であり、現在もローマ市庁舎が位置する。

カンピドリオ広場(Piazza del Campidoglio)

現在の頂上には、ミケランジェロが設計したカンピドリオ広場があり、中心にはマルクス・アウレリウス像、その周囲をカピトリノ美術館、コンセルヴァトーリ宮殿などが取り巻いている。

また、ヴェネツィア広場側にはヴィットーリオ・エマヌエーレ2世記念堂がカンピドリオの丘に背を向けるように建っている。



■スペイン広場 (Piazza di Spagna)



イタリア・ローマにある有名な広場。
間近にあるスペイン大使館からこの名で呼ばれている。

スパーニャ広場とも。広場の中央には、ジャン・ロレンツォ・ベルニーニ作「バルカ
ッチャの噴水」がある。東には後述の大階段がある。西側はコルソ通りに向けてコンド
ッティ通りがある。



「イタリア写真壁紙 (<http://italia.picwp.net/>)」



■トレヴィの泉 (英:Trevi Fountain、伊:Fontana di Trevi)



ローマにある最も巨大なバロック時代の泉で、ローマでも有数の観光名所として賑わ
っている。「トレヴィの泉」とも。

ポーリ宮殿の壁と一体となったデザインで、中央に水を司るネプトゥヌス（ポセイド
ーン）が立ち、左に豊饒の女神ケレス（デメテル）、右に健康の女神サルース（ヒュギ
エイア）が配置されている。これらはサルヴィの原案でブラッチが制作した。

元々は古代ローマ時代に皇帝アウグストゥスが作らせたもので、ヴェルジネ水道
（ウィルゴ水道、乙女の水道の意）の終端施設としての泉が場所を替えた後、今の位置
になった。

その後、泉はローマの建築家ニコロ・サルヴィの設計で改造、彼の没後の1762
年に完成した。



「イタリア写真壁紙 (<http://italia.picwp.net/>)」



■シエーナ (Siena) ～カンポ広場



シエーナは、人口54,498人のイタリア共和国トスカーナ州シエーナ県のコムーネの一つで、シエーナ県の県都である。

市街は、カンポ広場を中心に、via di citta', banchi di sopra, banchi di sottoの3つの通りが丘の尾根を放射状に外に向かって伸びており、これらが街の基本的な骨格となっている。

金融都市として有名なこの町には、現在営業している銀行では世界最古の歴史を持つモンテ・デイ・パスキ・デイ・シエーナ銀行（1472年創業）の本店がある。

ゴシック末期の国際ゴシックの美術が栄え、当時はルネサンスのフィレンツェと肩を並べる芸術の中心地であった。フィレンツェ大聖堂をしのぐ大規模な聖堂を建設しようとしたが、中断したという。

カンポ広場、シエーナ大聖堂をはじめ中世のたたずまいが今も残っており、「シエーナ歴史地区」として1995年に世界文化遺産に登録されている。



■サン・マルコ広場 ～サン・マルコ大聖堂 (Basilica di San Marco)



イタリア、ヴェネツィアのサン・マルコ広場にある大聖堂(カテドラル)。

初期キリスト教時代からヴェネツィアでもっとも重要な教会だったが、ヴェネツィアの大聖堂としての役割をになうのは、1807年にサン・ピエトロ・ディ・カステロ聖堂の後をひきついでからである。976年の火災で建物はほぼ全焼し、一時的な修復がほどこされただけだったため、もとの形は現在ほとんど残っていない。現在の大聖堂は1063年に建設がはじまり、90年代に完成した。

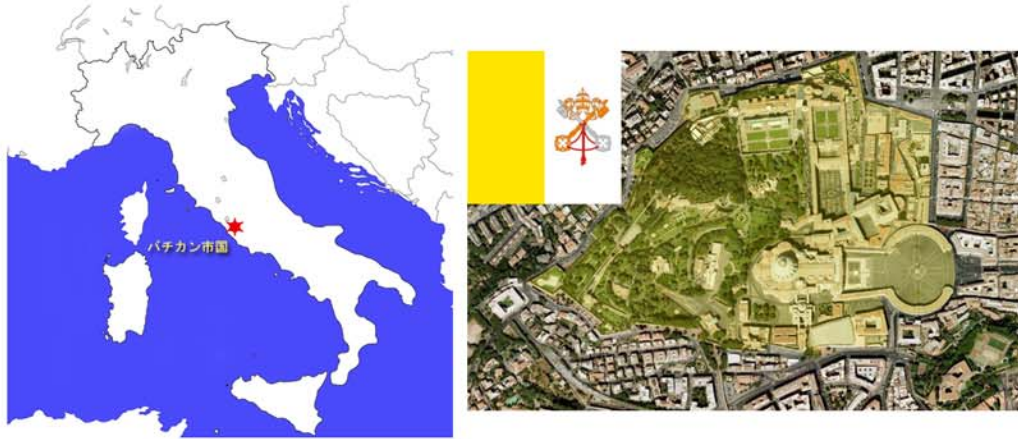
大聖堂前のサン・マルコ広場にたつ独立型鐘塔(カンパニーレ)は1902年に倒壊したが、すぐに元どおりに修復された。広場は12世紀に拡張され、その周りにパラッツォ・ドゥカーレをはじめとするヴェネツィア共和国の公共建築がたてられた。

サン・マルコ広場は、ヴェネツィアでもっとも多くの人があつまる場所と言われている。



「イタリア写真壁紙 (<http://italia.picwp.net/>)」

■サン・ピエトロ広場 (Piazza San Pietro)



バチカン市国南東端にあるカトリック教会の総本山、サン・ピエトロ大聖堂の正面にある楕円形の広場。ジャン・ロレンツォ・ベルニーニの設計により、1656～67年に建設された。4列のドーリア式円柱による列柱廊と140体の聖人像に囲まれた広場の中央にオベリスクが立つ。



「イタリア写真壁紙 (<http://italia.picwp.net/>)」

■ストックホルム 市庁舎広場



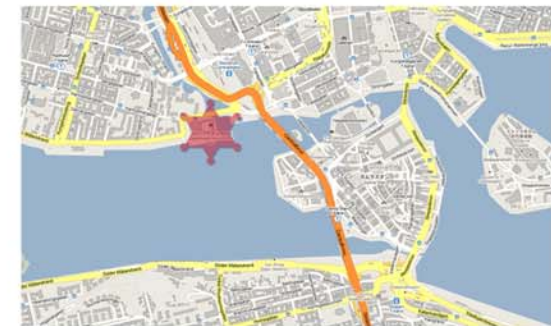
スウェーデンの首都ストックホルムの市庁舎。

ノーベル賞の記念晩餐会が行われる場所であり、ナショナル・ロマンティズム建築の傑作としても知られる。

建築家ラグナル・エストベリの設計により、1909～1923年に建設された。

メーラレン湖に面した立地で、ヴェネツィアのドゥカーレ宮殿（総督館、Palazzo Ducale）を意識し、さらにヨーロッパ各地の名建築からインスピレーションを受けた折衷的なデザインである。

内部には有名なノーベル賞の晩餐会が行われる青の間、パーティーが行われる黄金の間がある。



■シテ島 (Ile de la Cite)



フランス、パリのセーヌ川にうかぶ小島で、パリ発祥の地とされている。

紀元前250年ごろ、パリの地名の由来ともなったケルト系のパリシイ族がはじめてこの島に住み着いた。その後ローマ人が侵入、彼らは宮殿をつくり、行政の中心地とした。508年ゲルマン系のフランク王国のクロービスが島を首都と定め、その宮殿に住んだ。シテ島とよばれるようになったのはこの頃からである。

9世紀ノルマン人の侵略にパリ伯ウードが防戦し、その功により西フランクの王に選ばれ、その孫のユーグ・カペーがたてたカペー王朝のもとで、シテ島には数々の建物が造営された。宮殿は拡張され王宮となり、その後14世紀にルーブル宮が建造されるまで、代々の王の宮殿とされた。王宮はたびたび拡張され、また何度か火災にもあっているが、現在もパレ・ド・ジュスティス(裁判所)、コンシェルジュリー(裁判所付属監獄)にその名残をとどめている。また、12世紀から14世紀にかけてノートル・ダム大聖堂をはじめとして多数の教会や礼拝堂、病院、市場などが造られた。

フランス革命後は荒廃していたが、19世紀後半ナポレオン3世の時代に、大規模な都市計画が実施され、まずしい民家や古い教会が取り壊され、王宮は大々的に改築されて、一部がパレ・ド・ジュスティスとして利用され、また市立病院、警視庁などが新たに建築された。パリの中心に位置するシテ島はこのように古い歴史をほこり、名所旧跡も数多く、訪れる人々が後をたたない。



■コンコルド広場 (Place de la Concorde)



パリの中心部、チュイルリー公園とシャンゼリゼ通りに挟まれて位置する。

1755年、Ange-Jacques Gabrielによって設計され、当初ルイ15世の騎馬像が設置されていたため「ルイ15世広場」と呼ばれていた。

その後、フランス革命の勃発により、騎馬像は取り払われ、名前も「革命広場」に改められた。

革命期には、ルイ16世やマリー・アントワネットの処刑が行われた場所でもある。

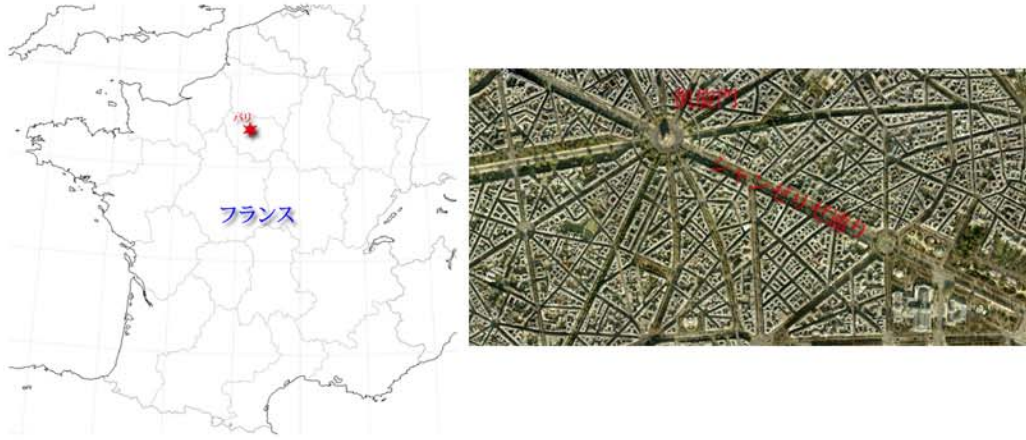
1795年、現在の「コンコルド広場」という名前と呼ばれ始める(公式名になったのは1830年)。

広場の中心部には、エジプトのルクソール神殿から運んできたオベリスクが置かれている。



La place de la Concorde a Paris.
Author : Eric Pouhier Date : December 2005

■パリの凱旋門 ～シャルル・ド・ゴール広場



○凱旋門（エトワール凱旋門）

パリ中心部、シャルル・ド・ゴール広場（旧エトワール広場）中央に立ち、エトワール凱旋門ともいわれる。1805年のアusterlitzの戦いに勝利した記念として、1806年に、ナポレオン・ボナパルトの命のもとシャルグランの設計で着工し、ルイ・フィリップの復古王政時代である1836年に完成した。（高さ50m、幅45m）

○シャルル・ド・ゴール広場（旧エトワール広場）

エトワール凱旋門を中心に、シャンゼリゼ通りを始め、12本の通りが放射状に延びており、その形が地図上で光り輝く「星=etoile」のように見えるので、この広場は「星の広場（エトワール広場）la place de l'Etoile」と呼ばれていたが、ナチス・ドイツに占領されていたパリを解放したシャルル・ド・ゴール将軍の栄誉をたたえ、1970年に「シャルル・ド・ゴール広場 la place de Charles de Gaulle」と改称された。

○シャンゼリゼ通り（フランス語: l'Avenue des Champs-Élysées、または les Champs-Élysées）

パリ市内で最も美しい通りとされていて、特にフランスでは「世界で最も美しい通り（la plus belle avenue du monde）」と言う表現が使われている。マロニエ（マロンの木）の並木道となっていて、東はオベリスクのあるコンコルド広場から、西は凱旋門のあるシャルル・ド・ゴール広場まで全長約3km
続く。



■ポンピドゥーセンター（Centre Pompidou）広場



フランスの首都・パリ4区（セーヌ川右岸）にある総合文化施設で、正式名称はジョルジュ・ポンピドゥ国立美術文化センターという。

レンゾ・ピアノとリチャード・ロジャースが設計し、1977年開館。

名前は、フランス第五共和政の第2代大統領で、現代芸術の擁護者でもありこの施設を発案したジョルジュ・ポンピドゥーにちなんでいる。

様々な形態の同時代の芸術（現代美術や現代音楽、ダンス、映画など）のための拠点をパリ中心部に設けようとの意図から計画されたセンターである。

ポンピドゥー・センターには国立近代美術館、産業創造センター、音響音楽研究所 IRCAM、公共図書館が入っている（IRCAMは組織としてはポンピドゥー・センターが管轄するが、建物はポンピドゥー・センターの中ではなく、その南隣にあるストラヴィンスキー池の地下に存在する）。



■グラン=プラス (フランス語:Grand-Place、オランダ語:Grote Markt)



ベルギーのブリュッセルの中心地にある大広場。

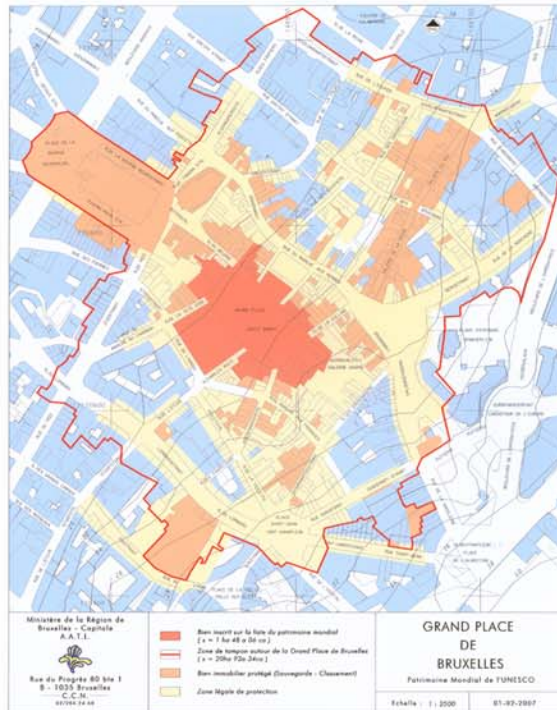
ヴィクトル・ユゴーが賛嘆したことでも知られるこの大広場は、世界で最も美しい広場のひとつと見なされている。

1998年にユネスコの世界遺産に登録された。

グラン=プラスは美しい広場であるが、華やかな歴史ばかりに彩られていたわけではない。1523年にプロテスタントの最初の殉教者たちであるヘンドリク・フォエス (Hendrik Voes) とヤン・ファン・エッセン (Jan van Essen) がこの地で火刑に処された。

1695年8月13日に、当時木造だった広場の家屋は、ヴィルロワ元帥に率いられたフランス軍の砲撃によって、大半が破壊された。市庁舎の塔は砲撃の的になったが、

石でできた壁は放火による火災に耐えた。広場を囲む家々は様々なギルドによって石造りで再建された。このため、市庁舎以外のほとんどの建物は、この時以降のものである。



■赤の広場 (Красная площадь クラスナヤ・プロシヤチ)



ロシアの首都モスクワの都心部にある広場である。

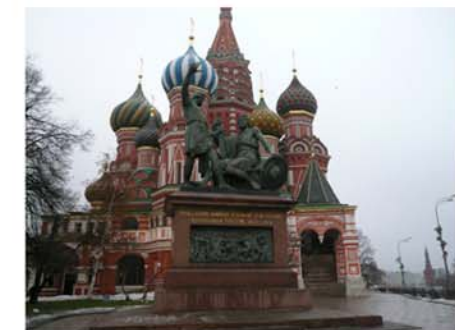
「赤」はソビエト連邦の社会主義に起因するものではなく、元々は古いロシア語で「美しい」という意味であり、広場の名前は本来「美しい広場」というものであった。

広場は東西に長く、南にはスターリンや片山潜などが眠るクレムリンの城壁とその中の大統領官邸、城壁に接しているレーニンの遺体が保存展示されているレーニン廟、北には国立百貨店・Г У М (ゲーム)、西には国立歴史博物館、東には葱坊主の屋根の聖ワシリイ大聖堂と処刑場・布告台だったロブノエ・メストがある。

1493年、モスクワ大公国の統治者イヴァン3世が、自らの居城であるクレムリンの前の市街地を広場として整理させたのが起源とされる。以後、商業地域のキタイゴロドと区別され、モスクワ大公国やロシア帝国 (ロマノフ朝) の重要な国家行事がここで行われるようになった。

ロシア革命後に成立したソ連の首都がモスクワに定められると、クレムリンには最高指導者が居住し、旧ソ連時代には、革命記念日である毎年11月7日にここで閱兵式 (軍事パレード) が行われた。

ソ連末期の1990年には、クレムリンと共にユネスコから世界遺産に文化遺産として指定され、1991年に登録された。





■ブレーメンのマルクト広場の市庁舎とローラント像 <ドイツ>

ドイツの世界遺産のひとつで、ブレーメンの中心的地な広場であるマルクト広場に面する市庁舎と、広場中央に立つローラント像を主たる登録対象としている。

市庁舎は、旧市街のマルクト広場に立っており、真正面にはローラント像が立っている。広場の向かいには商業会議所が建ち、右手にはブレーメン大聖堂と近代的な市議会、左手には聖母教会が建っている。広場の西側には、ゲアハルト・マルクス (Gerhard Marcks) 作の「ブレーメンの音楽隊」像が立っている。

■マイセン <ドイツ>

ドイツ中東部の陶磁器で有名な都市。ザクセン州にあり、エルベ川河畔に位置する。ドレスデンに近く、歴史的建造物としては、ともに13～14世紀の建築である大聖堂と聖アブラ教会がある。



■リューネブルク



■ツエレ



■シュターデ

■シュターデ、ツエレ、リューネブルクの街並み <ドイツ>

リューネブルクは有名な自然保護地区、リューネブルガーハイデの端にあり、そこへの観光基地でもある保養都市。

昔は岩塩の採掘で栄え、ここからイルメナウ川沿いにリューベックから送り出されていた。その街道は現在では、「塩街道」(ザルツ・シュトラッセ)の名で観光化されている。

リューネブルガーハイデへ向かうエリカ街道もこの町を通る。



- ドレスデン オペラハウス（ゼンパー・オーパー）
 <ドイツ>
 ゼンパー・オーパー（Semper Oper）はドイツ・ザクセン州の州都ドレスデンにある州立歌劇場の愛称である。
 東ドイツ時代はドレスデン国立歌劇場であったが、現在はザクセン州立歌劇場である（旧称で呼ばれることも多い）。
 世界で最も華麗な劇場の一つと言われている。

- ドレスデンの聖母教会 <ドイツ>
 ドイツのザクセン州、ドレスデンにあるルター派の教会である。
 聖母教会は第2次世界大戦の際のドレスデン爆撃に耐えた。しかし建物の殆どが焼失し、爆撃の翌日には崩れ落ちた。
 この教会はかつての敵との和解のランドマーク的シンボルとして再建された。



- ブリュッヘ歴史地区 <ベルギー>
 「ブリュッヘ歴史地区」は、ベルギーの古都ブルッヘ（ブリューージュ）の中心市街のユネスコ世界遺産としての登録名。
 対象区域内には、他の二つの世界遺産（「フランドル地方のベギン会修道院群」「ベルギーとフランスの鐘楼群」）に登録されている物件も包含している。
 ブリュッヘは中世には一大貿易拠点として繁栄した。その後、経済上の重要性を失って衰退したことで、かえってヘントなどに比べて中世の面影を残す町並みが多く残っている。
 市街の随所に幅の狭い運河が通じ、赤煉瓦の家屋の並ぶ美しい町並みは「天井のない美術館」とも称され、スウェーデンの首都ストックホルム同様に「北のヴェネツィア」の異称もある。
 中世以来の町並みの中には、ヨーロッパで最も高い煉瓦建築物である122mの尖塔を抱える聖母大聖堂が含まれており、市街の外れには風車と中世以来の城門も見られる。



- リューベック ホルステン門 <ドイツ>
 リューベックはバルト海に面する北ドイツの代表都市で、かつてはハンザ同盟の盟主として繁栄を誇った。トラベ川とトラベ運河に囲まれた島にある旧市街地は世界遺産に登録されており、旧市街地の入り口のホルステン門（Holstentor）はユーロ導入以前の旧ドイツマルク紙幣の図柄にも採用されている。
 マルクト広場に面して黒レンガ造りの市庁舎があり、その隣にゴシック様式のマリエン教会がある。



- サグラダ・ファミリア <スペイン>
 スペイン、バルセロナに建設中の教会。サグラダ・ファミリアとは「聖家族」を意味する。アントニ・ガウディの代表作の1つ。



■テロー広場（リヨン歴史地区） <フランス>

リヨン歴史地区は、フランス南東部、リヨンの市内西部に位置し、ソーヌ川沿いにある、石畳の街並みの残る旧市街（Vieux Lyon）からクロワ・ルースにかけての地区で、1998年12月、ユネスコの世界文化遺産に登録された。

テロー広場（La place des Terreaux）は市庁舎横にある広場で、フレデリク・バルトルディ作の噴水がある。夜には、たくさんの噴水がイルミネーションで飾られる。

通りを隔てた反対側にはリヨン美術館（Musée des - Beaux Arts）がある。

■発見のモニュメント

<ポルトガル>

ポルトガル・リスボン市西部ベレン地区にある大航海時代を記念した記念碑で、1940年にポルトガルで開催された万国博覧会の象徴として制作されたもの。

独裁者アントニオ・サラザール時代の典型的な、過去のポルトガル栄光の時代へのロマン思想を表しているとみられている。

記念碑の内部にある小さなスペースには、リスボンの歴史を展示しており、頂上では、ベレン地区やテージョ川が眺められる。ベレン地区には、大航海時代の建築物で世界遺産であるベレンの塔とジェロニモス修道院がある。



■ストラスブール <フランス>

フランス北東部の、ライン川左岸に位置する都市である。

アルザス地域圏の首府であり、バ＝ラン県の県庁所在地でもある。

ライン川の河川港を抱える交通の要衝で、古い建物が残る旧市街には「小さなフランス」と呼ばれる美しい一角があり、有名なストラスブール大聖堂は1015年ごろから建築が始まったが、この時期のものは一部だけが残っている。



■シドニー・オペラハウス <オーストラリア>

オーストラリア・シドニーにある20世紀を代表する近代建築物であり、世界的に有名な歌劇場・コンサートホール・劇場でもある。

オペラ・オーストラリア、シドニー・シアター・カンパニー、シドニー交響楽団の本拠地になっている。



■プラハ歴史地区 <チェコ>

プラハ歴史地区はチェコ、プラハにあるユネスコ世界遺産の日本における呼称である。

1992年に登録された。

プラハ市街中心部、ヴルタヴァ川の東岸に位置する旧市街から南の新市街まで、西岸のフラッチャニ地区およびマラー・ストラナ地区、計866haが登録対象地域となっており、11世紀から18世紀にかけてのさまざまな時代様式の建築物が残る。



■リアルト橋 <イタリア>

ヴェネツィアのカナル・グランデに架かる4つの橋の一つ。

「白い巨象」とも呼ばれる。

この橋の周辺は海抜が比較的高く洪水の被害も少ないため、ヴェネツィアでは最も早くこの周りに集落ができ商業の中心地となった。



■ドレスデン、レジデンス城の壁
＜ドイツ＞

ドレスデン、レジデンス城の壁。1123年～1904年までのザクセン君主や芸術家が、マイセン磁器のタイルに描かれている。



■ドイツ博物館 ＜ドイツ＞

ミュンヘンにある技術・科学の国立博物館で、ドイツ国内のみならず、世界でもこの方面の博物館として頂点に立つもの言われている。

オスカー・フォン・ミラーが1903年に提唱、1925年から一般に開館した。農業、鉱業、航空工学から、鉄道、機械、宇宙に至るまで、ドイツの科学技術を若い世代に引き継ぎ、学ばせるための博物館とされ、敷地面積5万km²。展示品目は約1万7千点以上にのぼる。

展示は体験型博物館展示の典型的なもので、子供たちがそのすべてを十分に体験しようとすれば、少なくとも数日を要すると言われる。

館内には文書館があり、ドイツの近世から現代における自然学および工学研究の文献を備える。



■ミニチュアワンダーランド ＜ドイツ＞

ハンブルクにある世界最大級のHOゲージ鉄道模型レイアウト。

ハンブルク港の倉庫街に世界最大の鉄道模型館(展示面積1,150平方メートル)がある。



■ベルリンの壁 ＜ドイツ＞

ベルリンの壁がベルリン東駅付近のシュプレー川沿いにある。

現在はイーストサイドギャラリーとして、東方向に1.3kmの長さで残されている。

■ベルリン・ドイツ技術博物館
＜ドイツ＞

歴史的な技術的製品の大きなコレクションを展示している。

博物館の重点は鉄道輸送機関にあるが、様々な産業テクノロジーの展示をも特徴とする。

近年、海運および航空展示ホールを開設した。

博物館はスペクトラムと呼ばれる科学センターも有する。



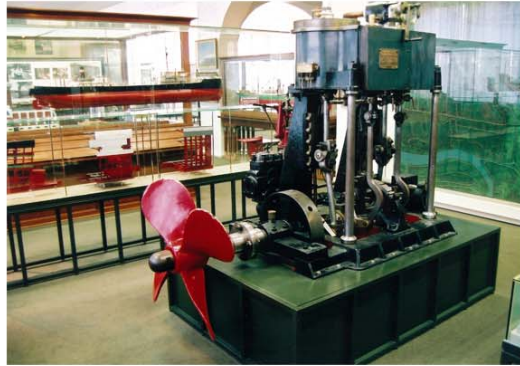
■クリスマスマーケット（ドレスデン）
＜ドイツ＞

クリスマスマーケットは、ドイツやオーストリアの都市の広場でアドベントに行われるイベント。

ドイツ圏ではほぼ全ての都市、小都市で行われる。

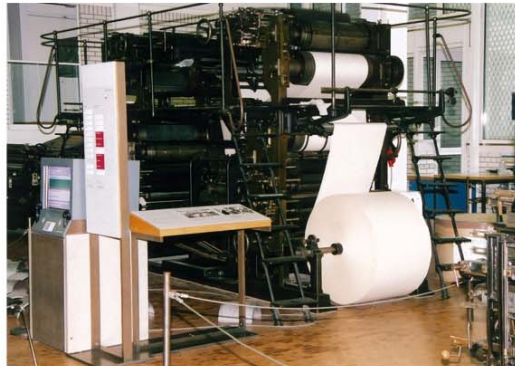
夜が長く天気の良い冬のドイツの呼び物として定着している。

クリスマスマーケットはドレスデンが発祥と言われている。



■ハンブルク歴史博物館 <ドイツ>

昔の町の模型や、船の模型が特に充実しており、船の構造を説明した実物大の模型などがある。



■バーデン＝ヴュルテンベルク州立「技術と労働の博物館」 <ドイツ>

1990年に開館した博物館で、ドイツ南西地方の工業化に関する視覚教育用教材を収めている。



■ニュールンベルグ・ドールハウス～ドイツ国立博物館 <ドイツ>

ドイツ国立博物館のおもちゃのコレクションは約2万点にのぼり、その中に17世紀の4つの大きなニュールンベルグ・ドールハウスを展示している。



■アズレージョ <ポルトガル>

アズレージョは、ポルトガル・スペインで生産される、典型的な上薬をかけて焼かれたタイル。

アズレージョは教会、宮殿、一般の家の内や外、鉄道駅や地下鉄駅でさえも見られる。

壁や床、天井でさえも使われるように、ポルトガル建築の主要外観を構成する。



■石畳～リスボン <ポルトガル>

ポルトガルの首都リスボンでは、装飾的な石畳がよく用いられている。



■ビスカヤ県の議会が開かれるバスク議事堂 <スペイン>

ピカソの大作『ゲルニカ』で有名なバスクの街にあり、内部が公開されている。



■ラ・ヴィレット <フランス>
パリにある公園。

35ヘクタールの敷地はかつての屠殺場跡を利用したもので、パリ市内で最も大きな公園であり、ペール・ラシェーズ墓地に次いで2番目に大きな緑地帯でもある。

公園内には、科学や音楽の専門施設、多くのモニュメントがある。



■ゲエル公園 <スペイン>

スペインのバルセロナにある公園で、バルセロナの街が一望できる。1984年にユネスコの世界遺産に登録された。

アントニ・ガウディの作品群の一つである。



■ビルバオ・グッゲンハイム美術館
<スペイン>

スペイン・バスク国自治州・ビルバオ市にある、近現代美術専門の美術館。

アメリカのソロモン・R・グッゲンハイム財団が設立したグッゲンハイム美術館の分館のひとつで1998年に開館。



■ショウウィンドウのディスプレイ
～プランタン <フランス>

マガザン・デュ・プランタン(フランス語: Magasins du Printemps) は、フランスのパリに本店を置く百貨店。1971年から、毎年異なるテーマで人形が展示される。



■フロゲネル公園 <ノルウェー>

オスロは、美術館や博物館、公園などが多い町として名高い。

オスロ大学(1811年創立)の古生物学、民族学、鉱物学の博物館、ノルウェー科学文学アカデミー(1857)、ノルウェー・ノーベル協会、国立公文書館がある。

ほかにヨーロッパ美術とくにノルウェー美術のコレクションをもつ国立美術館、オスロ工芸美術館、歴史博物館、ノルウェーの彫刻家ビーゲランによる約150体の彫刻群があるフロゲネル公園、ノルウェーの画家ムンクの作品を展示するムンク美術館、1300年ころの砦(とりで)跡アケルスフス、王宮(1848)、国会議事堂が知られる。



■マドローダム
～ミニチュアパーク <オランダ>

ミニチュアパークの起こりは19世紀後半のヨーロッパと言われ、主に博覧会の展示物として街並みや著名な建造物を再現する期間限定のものが多かったが1930年代にイギリスで現存する世界最古の常設展示型ミニチュアパークであるベコンスコット・モデルビレッジが開園、1952年にはオランダを代表する観光名所となっているマドローダムが開園している。



■レオナルド・ダ・ビンチ国立科学技術博物館 <イタリア>

イタリアのミラノにある国立科学博物館。1953年におこなわれたレオナルド・ダ・ビンチ生誕500年記念の展示をもとに開館された。

陸上・空・海の交通、電気通信、天文など、科学・工学技術の進歩をテーマとしている。

博物館は、16世紀に修道院として建設された建物を修復して使用。中庭をはじめ、食堂としてつかわれていた円柱の間、僧院の薬剤調合室や僧房が復元され、当時の面影を随所にみることができる。

また、修復工事中には帝政ローマ時代の城壁の基礎跡も発見され、現在中庭に保存されている。



■ケラム島博物館 <イギリス>

イングランドの技術者で発明家ヘンリー・ベッセマーが発明したベッセマー転炉などが展示されている。



■マンチェスター科学・産業博物館 <イギリス>

1830年に開業したリバプール・マンチェスター鉄道のリバプール・ロード駅舎を使用した博物館で、建物そのものが歴史的に重要な産業遺産である。

産業革命時代の原動力であった巨大な蒸気機関などが多数展示されている。



■ブリスト・ヒルの博物館 <イギリス>

世界遺産であるアイアンブリッジ峡谷に点在する博物館の一つで、トレンビックが制作した蒸気車のレプリカが展示されている。



■イギリス国立鉄道博物館 <イギリス>
イギリス・ヨークにある世界最大規模の鉄道博物館である。イギリスの科学と産業の歴史を学ぶことができる。



■だまし絵〜ケベック旧市街の歴史地区 <カナダ>

カナダの世界遺産で、ケベック州にある旧市街。北米唯一の城壁都市として知られている。



■オンタリオ・サイエンス・センター
＜カナダ＞

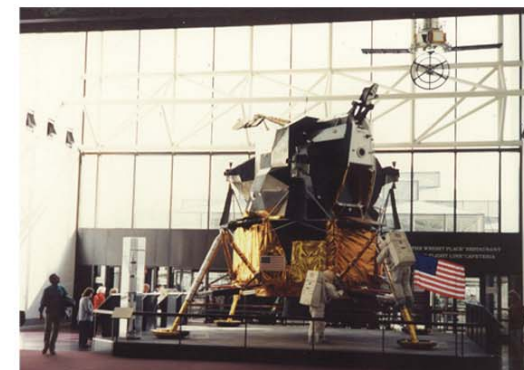
主に子供向けのアクティビティや展示が多くある博物館であるが、ドンバレー・ブリック・ワークスとして、1889年に開かれた工業団地の跡を、近年、公園と歴史史跡として再興し、毎年、夏になるとエキシビション・プレイスでカナディアン・ナショナル・エキシビション（CNE）が開催されている。



■シカゴ科学産業博物館 ＜アメリカ＞
世界でも最も訪問者数の多い博物館の一つに数えられている。

建物は1893年開催のシカゴ万国博覧会においてパレス・オブ・ファイン・アーツとして使われたもので、1933年のシカゴ万国博覧会期間中に開館した。

展示物には炭鉱、第二次大戦中に拿捕されたドイツの潜水艦U-505、NASAのアポロ8号計画で使われた宇宙船などがある。



■スミソニアン博物館 ＜アメリカ＞
アメリカを代表する科学、産業、技術、芸術、自然史の博物館群の呼び名。スミソニアン学術協会 (Smithsonian Institution) が運営している。



■ヘンリーフォード博物館 ＜アメリカ＞
ミシガン州ディアボーンのメトロ・デトロイトにある最大級の博物館複合施設であり、アメリカ合衆国国定歴史建造物に指定されている。

フォード劇場のエイブラム・リンカーンの椅子やトーマス・エジソンの研究所やライト兄弟の自転車屋などが展示されている。



■上海歴史陳列館 ＜中国＞

近代上海の歴史を等身大の人形と模型でたどる展示館。路面電車、コオロギ相撲、アヘン館、メリケン粉取引所などの街の様子を展示している。



■二十六聖人記念館～長谷川路可「長崎への道」壁画 ＜日本＞

フレスコ、二十六聖人が畿内～長崎・西坂の刑場まで連行される様子が描かれている。